

## II 設問と回答分布

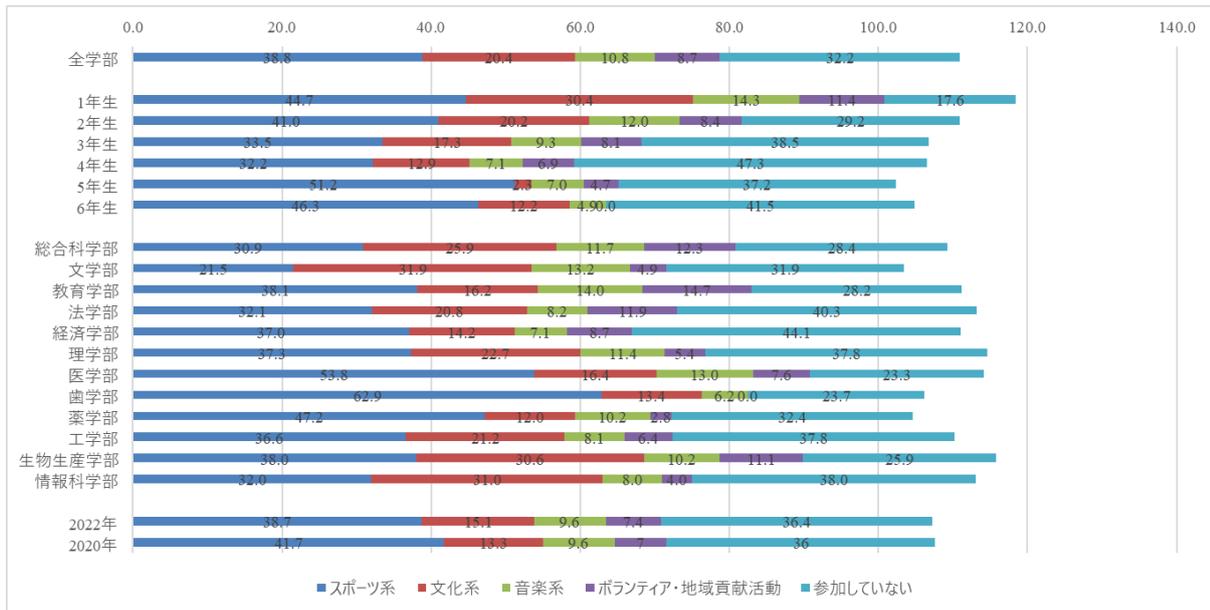
(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

### 学部

#### 1 課外活動の参加状況

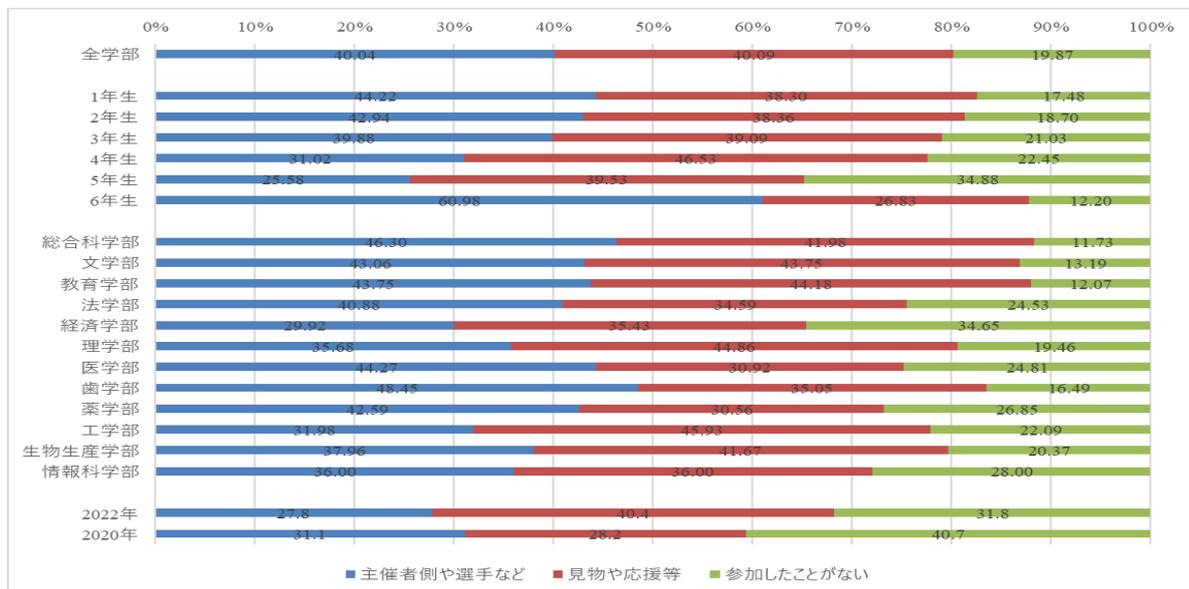
##### 設問1 学内のクラブやサークル活動に参加していますか。(複数回答可)

対象とした学生は、2019年度の入学生から2024年度の入学生であり、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発せられていた2020・2021年度に入学した学生が上級生になっている。2020年度入学生までは上級生ほど参加割合は低く、新型コロナウイルスのピークを過ぎてから徐々に参加率が高まってきたことが確認できる。ただし、これは上級生になってサークル活動をやる者が増えることも考えられるので一概に新型コロナウイルスの影響だけではない。特に、1年生の参加率が大きく高まっていることは特筆できる。全学部の2020、2022年度と2024年度の参加率を見ても、2024年度は前の2つの年度と比べて、参加率が1割ほど高くなっており、サークル活動等では新型コロナウイルスの影響を脱してきたと考えることができよう。また、5・6年生は主に医歯薬学部の学生が中心になると思われるが、4年生まで、あるいは医歯薬学部の学生以外の学生と傾向が異なり、スポーツ系のサークル等の割合が相対的に高くなってきている。これは東広島キャンパスと霞や東千田のキャンパスとでサークル等の構成の差によると考えられる。



##### 設問2 大学祭、ゆかたまつり、フェニックスリレーマラソン、霞祭等の大学の行事に参加したことがありますか。

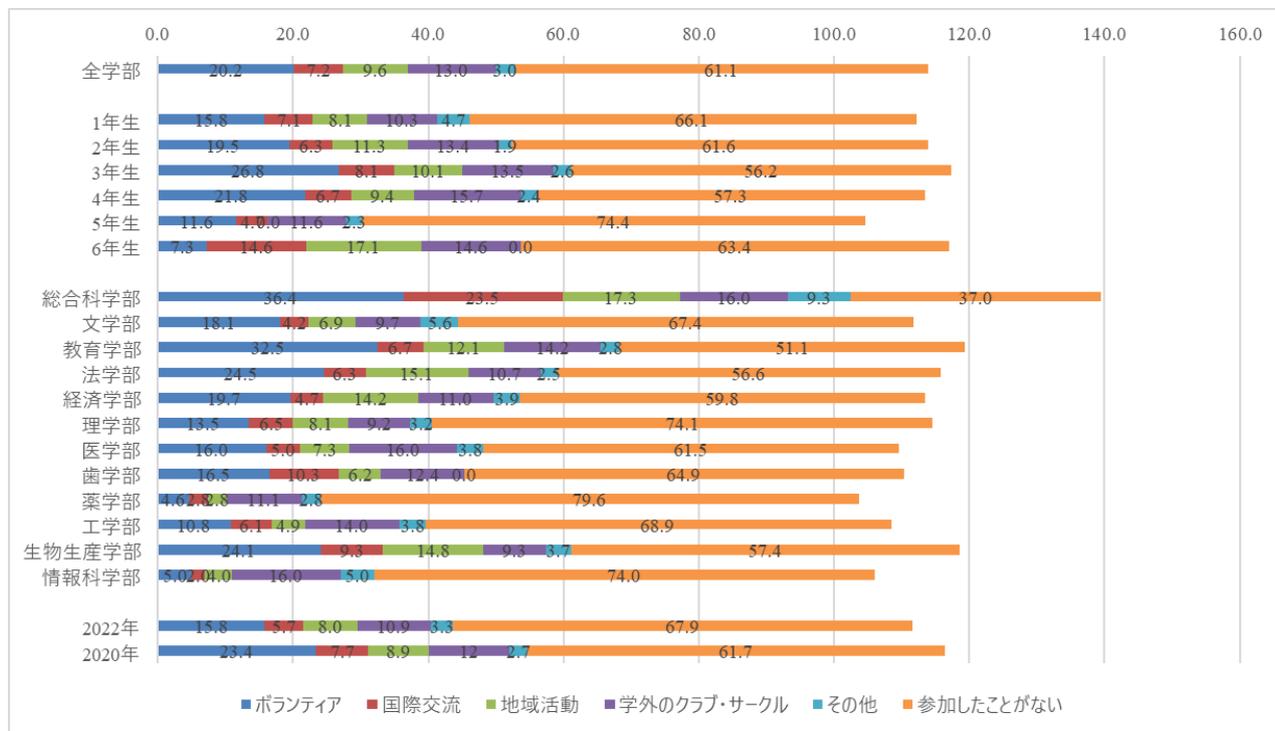
全学部では、主催者側や選手などで参加している学生が約40%、見学や応援等の学生が同じく約40%で、参加したことの無い学生は約20%である。これは2020年度、2022年度と比べてかなり増えている。コロナ禍の影響を脱してきたといえる。学年別には、6年生の主催者側や選手などで参加する割合が飛び抜けて高いことを除けば、上級生になるほど、参加率は低く、コロナ禍の影響を受け、活動の制限を強く受けた4、5年生の参加割合は大きく低くなっている。学部別では、主催者側や選手などで参加する割合は総合科学部と歯学部が高い。



### 設問3 学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。(複数回答可)

全学年で見ると、参加したことの無い学生は約60%で、約40%の学生がボランティア活動や地域の活動に参加したことがあるといえる。内訳は、ボランティア活動が約20%、学外のクラブ・サークルが約15%、国際交流や地域活動がそれぞれ10%未満となっている。年度による差はあまり大きくなく、学年による差も、5,6年生以外ではあまり変わらない。ただし、1~4年生については、学年が上がるほど参加する傾向が認められ、これは前2問の傾向と逆となっている。

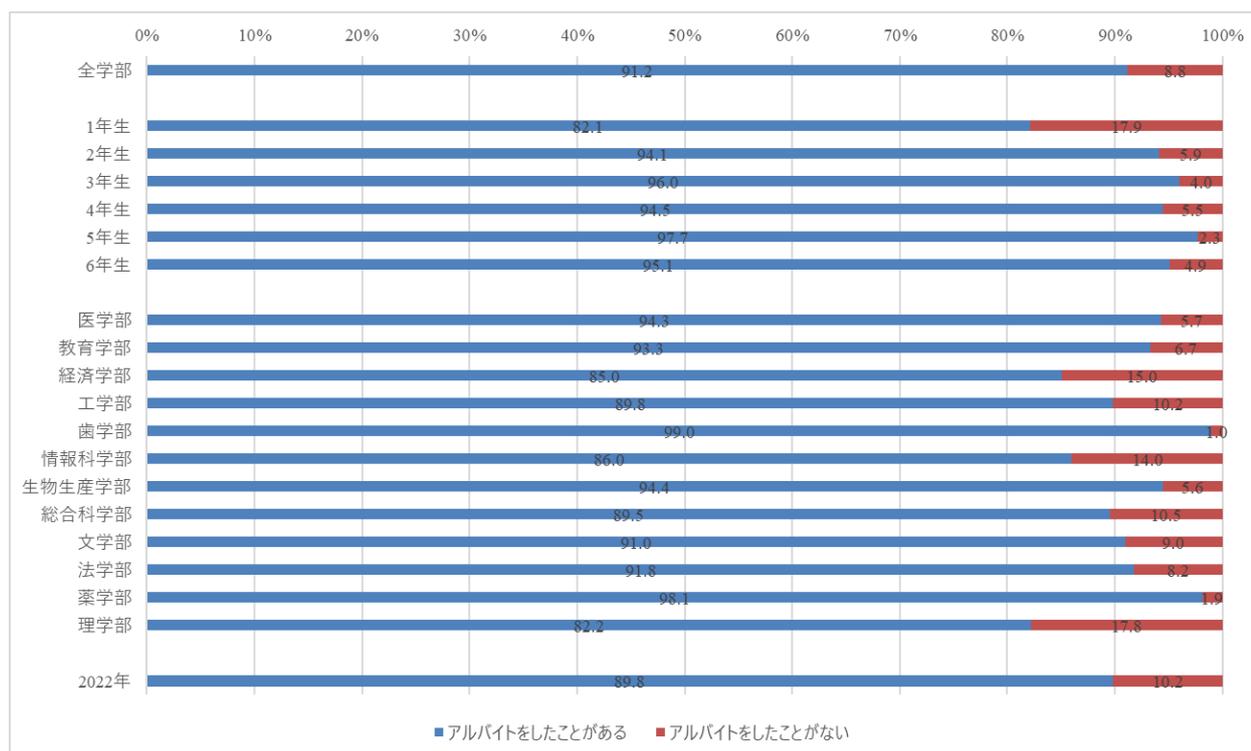
一方、学部の違いを見ると差が目立ち、総合科学部では、6割以上の学生が何らかの活動に参加しており、国際交流や地域活動への参加割合が高い。国際交流に関しては、全学平均の3倍以上となっている。ついで、教育学部、生物生産学部、法学部の参加割合も高い。社会活動への参加について、学部ごとのカラーがあるといえるかもしれない。



## 2 アルバイトの状況

### 設問4 入学後何らかのアルバイトをしたことがありますか。

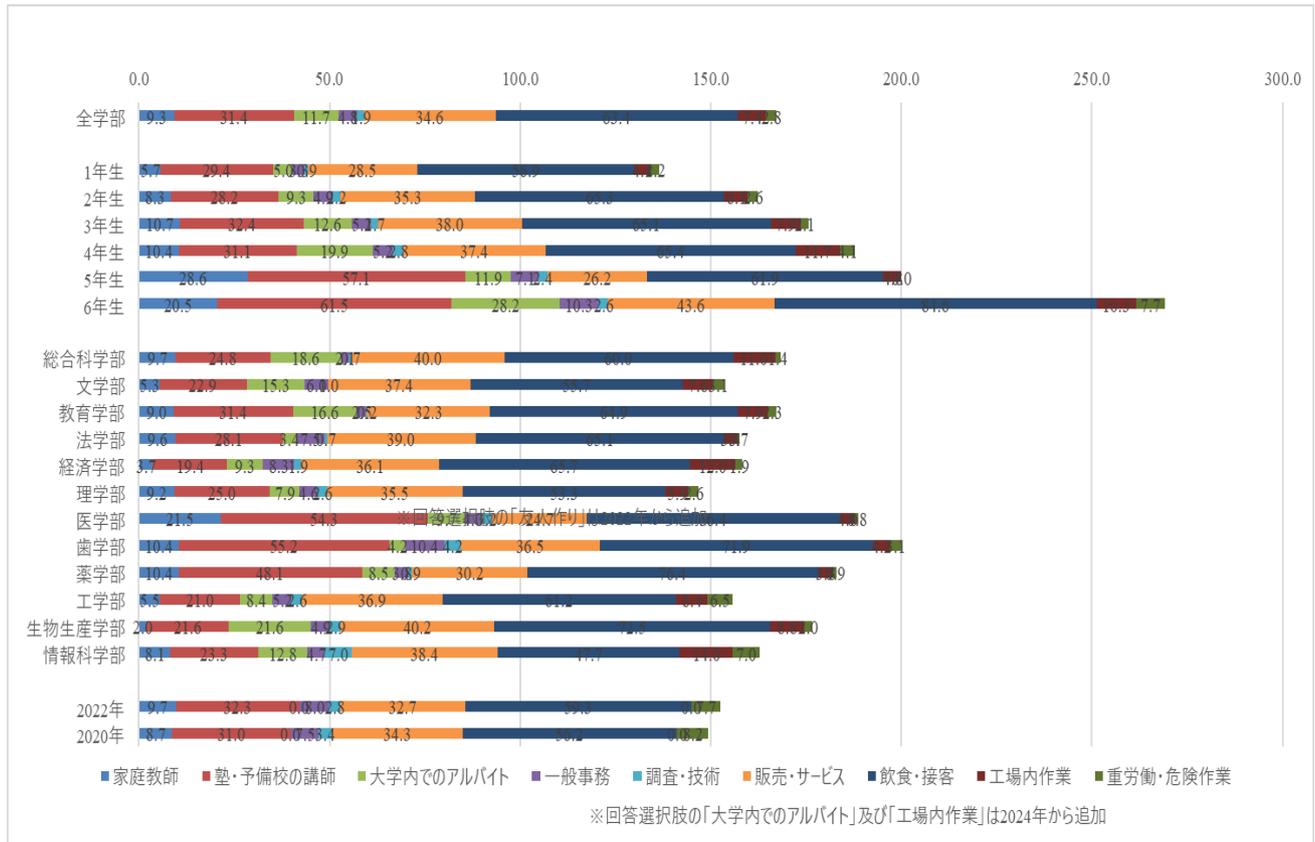
全体として、9割以上の学生が何らかのアルバイトをしたことがある。2022年度と比べてもほぼ同じである。1年生はバイトをしていない割合が高いが、2年生以降はほぼ同じになる。学部では、歯学部と薬学部でのアルバイト経験者の割合が特に高い。



### 設問5 したことがある(又は現在している)アルバイトはどれですか。(複数回答可)

経験しているアルバイトの業種を全学でみると、飲食・接客が最も多くて約65%、次いで販売・サービス、塾・予備校の講師となる。学年が上がるほど、経験した職種は増えていく。5,6年生では200%を超える。また、医歯薬学部の学生と、5,6年生では、家庭教師と塾・予備校の講師が他学部・他学年と比べて多い。

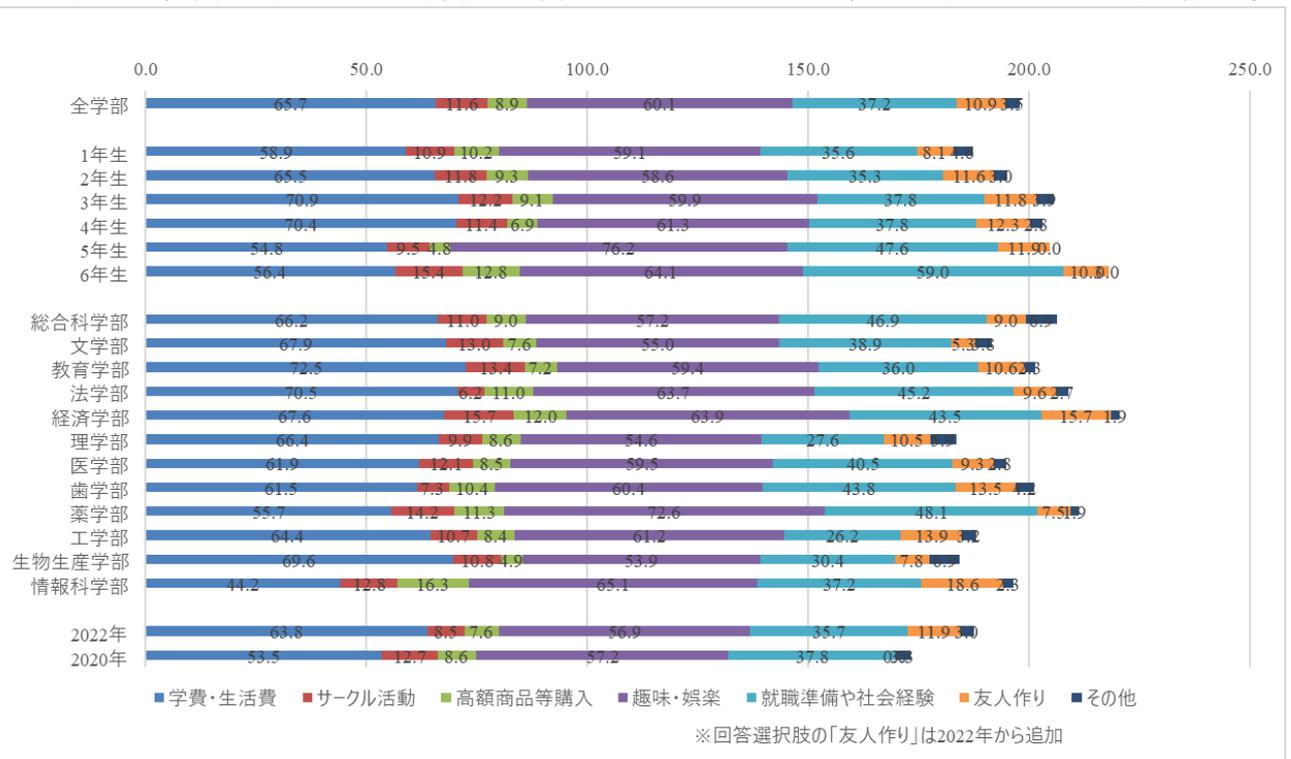
2020年度、2022年度と比べると経験しているアルバイトの種類が増えており、アルバイトをする機会がコロナ禍後に増えてきたと考えられる。



### 設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

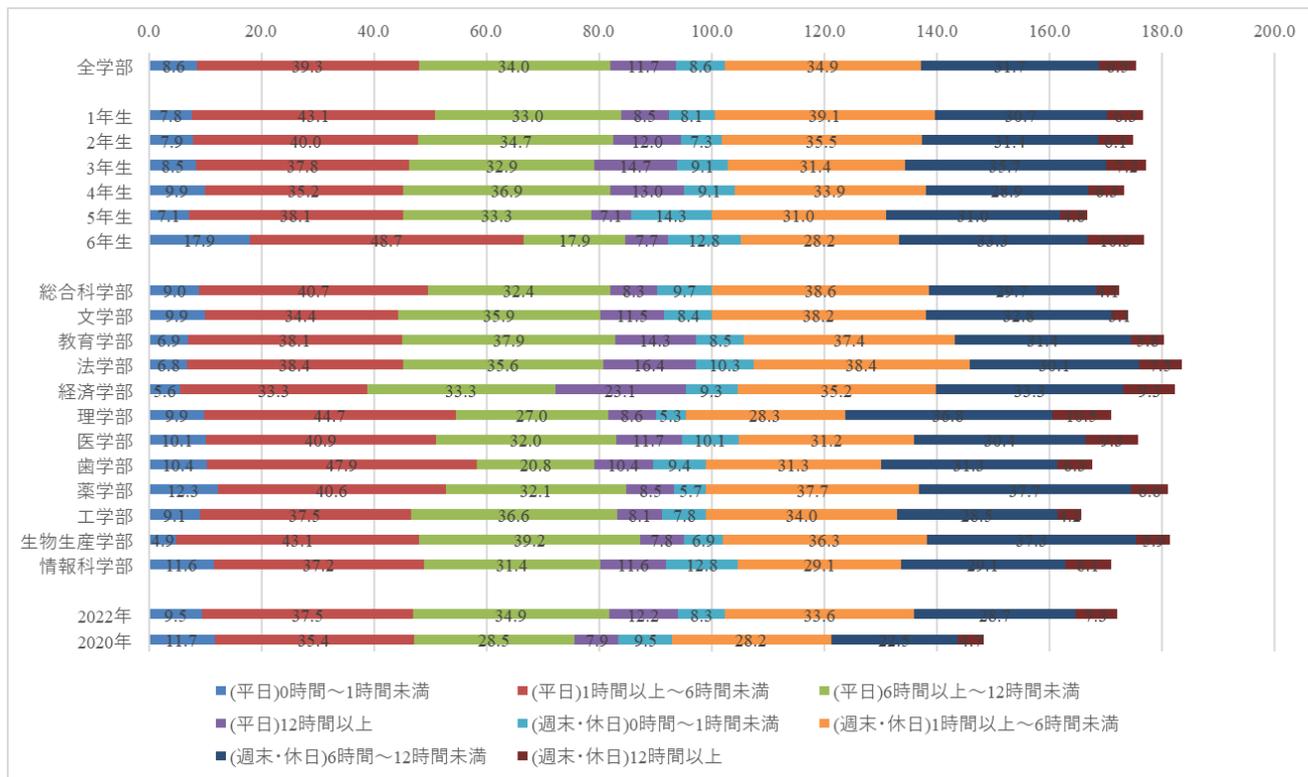
アルバイトを行う目的は、学年や学部による差はあまり大きくなく、学費・生活費が65.7%で最も多い。2020、2022年度と比して増加傾向にあり、1~4年生では学年が上がるほどこれを理由にするものが増える。次いで、趣味・娯楽のためにアルバイトをしている。5,6年生ではその割合が学費・生活を超える。また、就職準備や社会経験を目的とするものは、学年が上がるにつれて大きくなる。

学部別では、情報科学部において学費・生活費のための割合がやや低く、趣味・娯楽のための割合が増える。



**設問7 1週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から1つずつ選択してください。**

アルバイトに費やしている時間は、平日で1～6時間と6～12時間が同程度で、多くの学生がこの中におさまる。それでも12時間以上働いている学生も1割程度いる。週末・休日でも1～6時間と6～12時間が同程度で、多くの学生がこの中におさまる。6年生は平日の勤務時間が他学年と比べて少ない。2020年度と比べると、平日も休日もアルバイトをする学生の割合が増えたこともうかがわれる。ただし、2022年度との間には大きな違いはない。

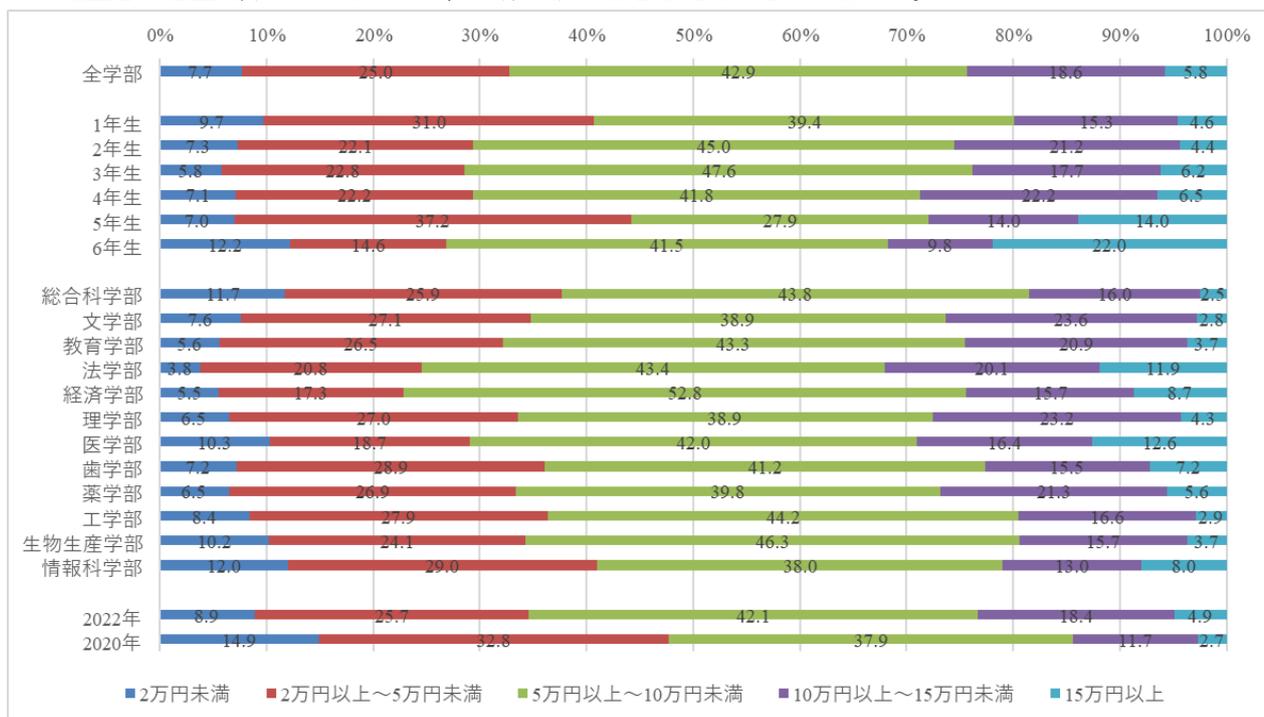


**3 経済状況**

**設問8 1か月の総収入（仕送りやアルバイト等、すべての収入を含める）はいくらですか。**

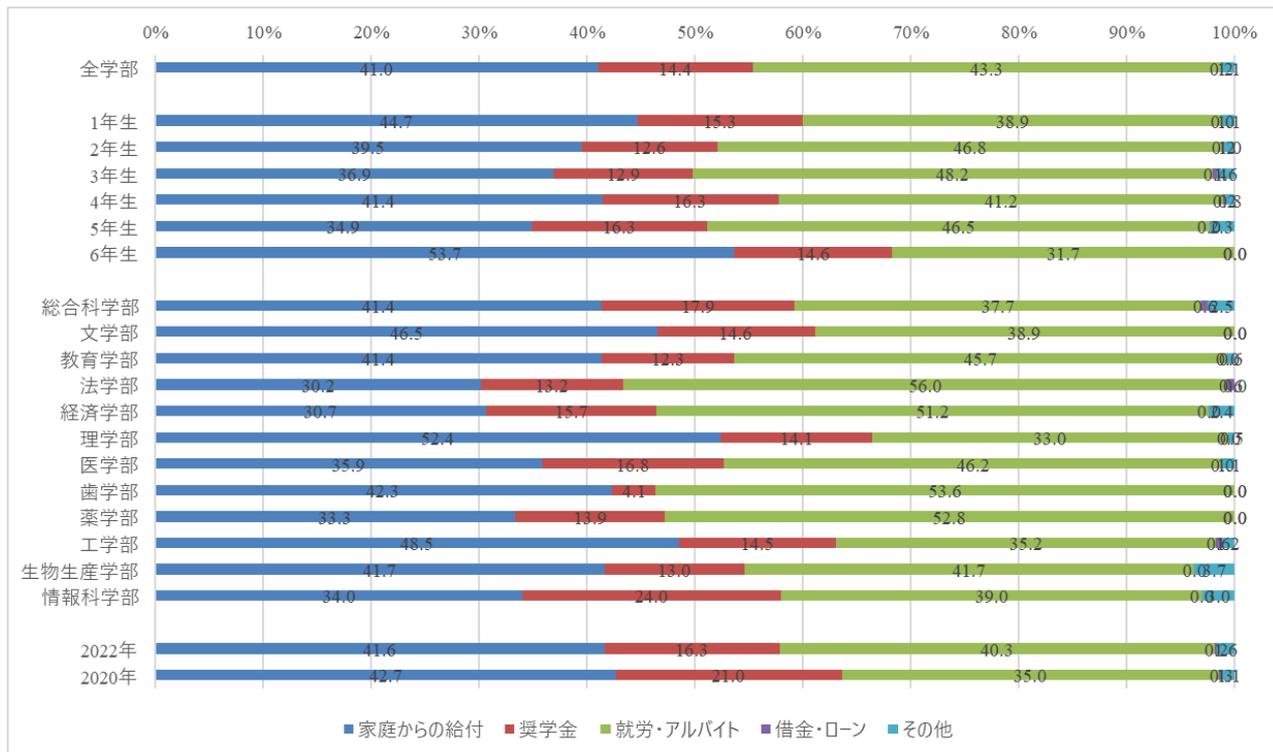
1ヶ月の総収入では、5～10万円の回答の割合が約40%となる。2～5万円が約25%，10～15万円が約20%と続く。2020年度，2022年度と比べると，総収入は増えている。

ただし，この設問への回答において，「総収入」の認識が回答者によって異なる可能性を否定できず，さらに自宅生と下宿生を分けていないので，一律に傾向をとらえることはできない。



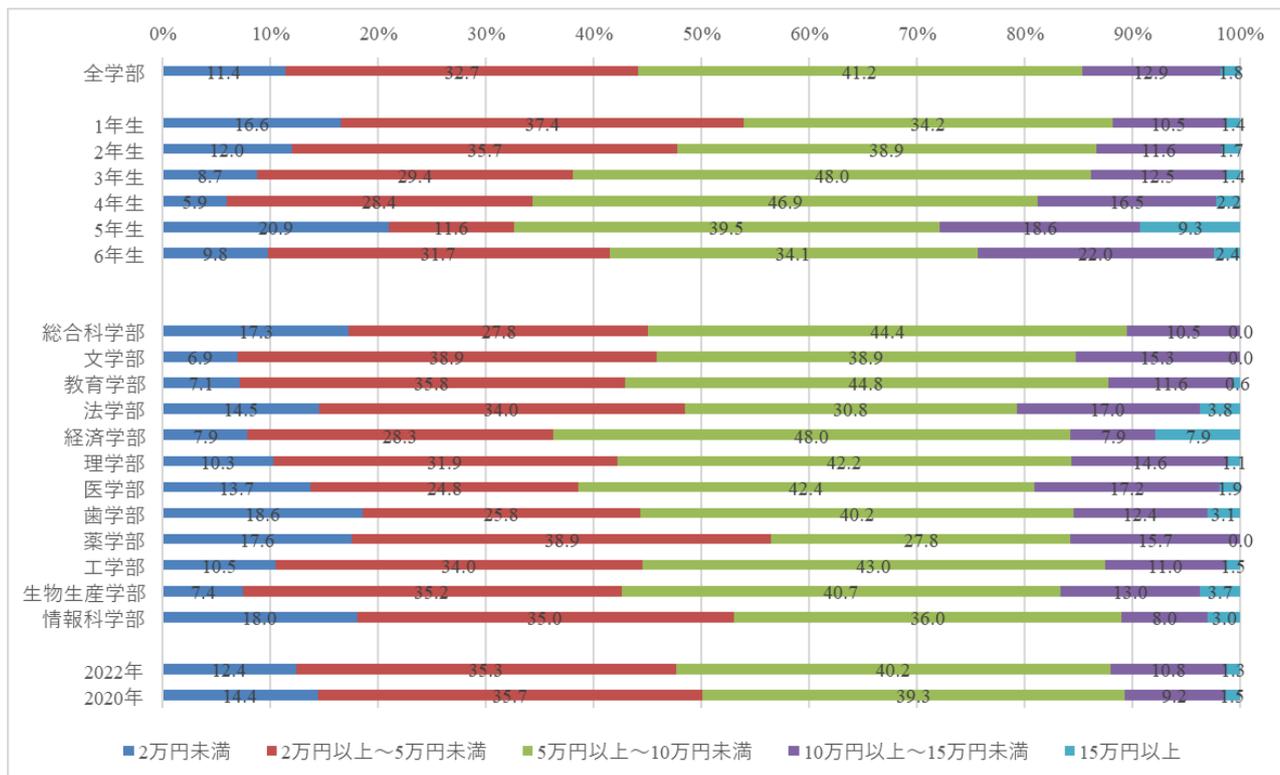
### 設問9 1か月の収入のうち1番多い収入は、次のどれですか。

就労・アルバイトが最も多く、約40%となる。ほぼ同程度で家庭からの給付となる。奨学金は15%程度で、2020年度、2022年度と比して低下傾向にある。法経学部と医歯薬学部で就労・アルバイトが多く、文学部、理学部、工学部で家庭からの給付が多くなる。



### 設問10 1か月の支出はいくらですか。

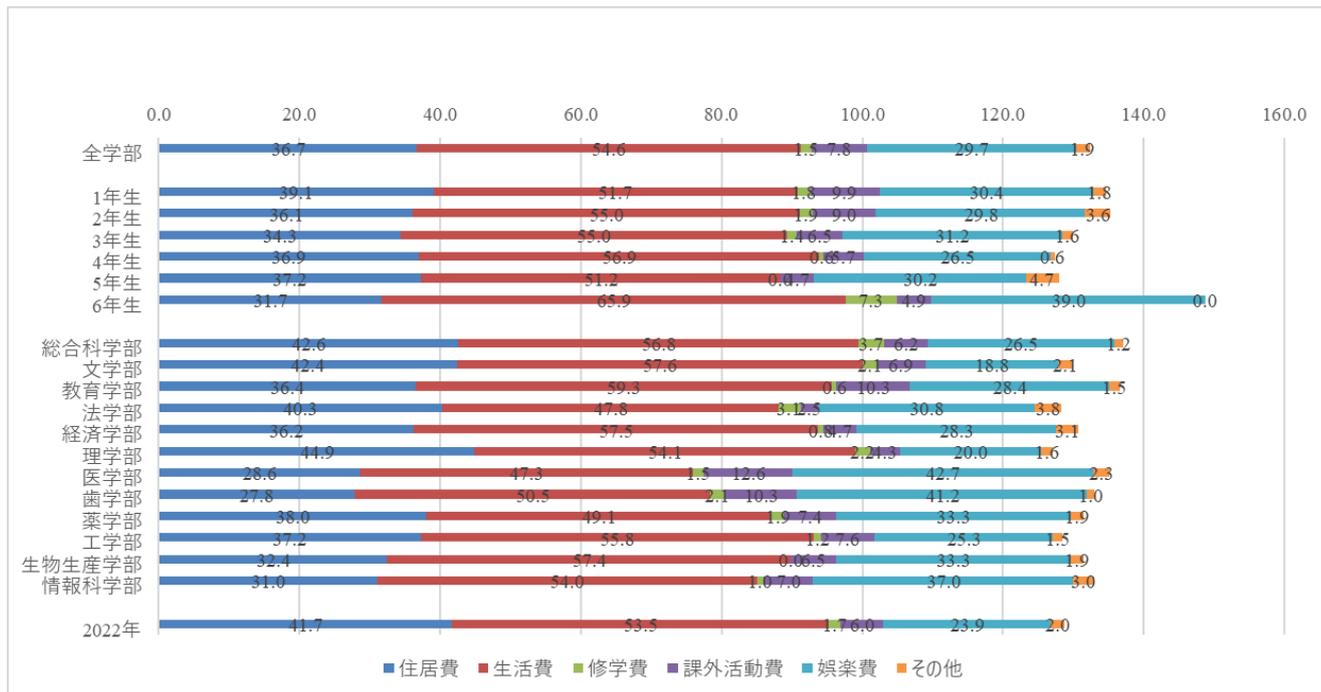
全体の傾向として、ボリュームゾーンは5~10万未満で4割。傾向は過去二年間とさほど変わらない。学年別に見ると1,2年生に比して、3,4年生は5~10万未満の支出があるとする学生の割合が10%程度多い。学部別では経済学部の学生は、5~10万の支出があるとする学生が5割近くを占めている点が、他部局学生に比して若干際立っている。他方で薬学の学生は27.8%とこのゾーンの支出学生の割合が低い。年度別では大きな変化は無い。



**設問 11 1か月の支出のうち、多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。(複数回答可)**

全体・学部別・年度別の値のいずれを見ても、多い必要経費は生活費であり、いずれも50%前後の学生が選択している。次いで住居費・娯楽費が拮抗しており30~40%程度の学生がこれら項目を選択している。課外活動費は10%前後、就学費は2, 3%程度となっている。

学部間で若干の差があり、医学部・歯学部では生活費を必要経費とする学生が全体の30%を切っており、他学部よりも低くなっている反面、遊興費がともに40%を超えており他学部よりも高い割合を占めている。

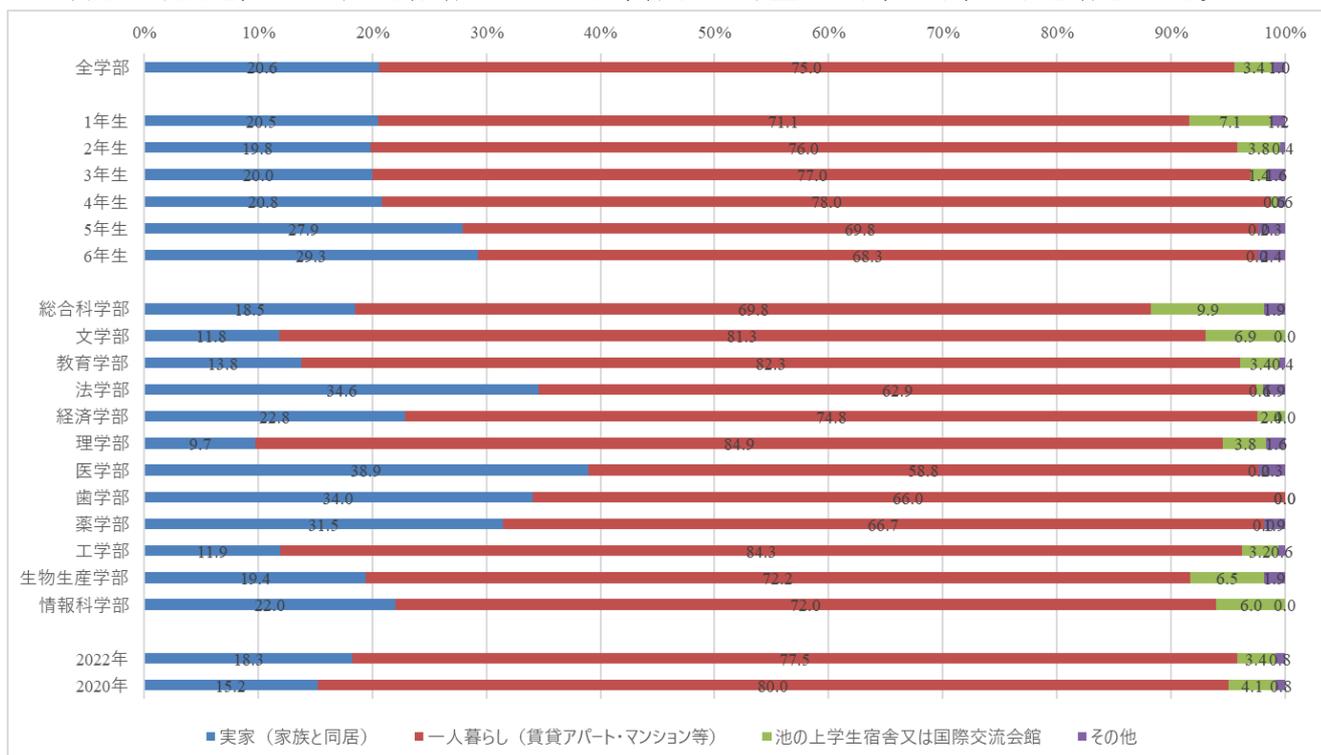


**4 住居・通学の状況**

**設問 12 居住形態を教えてください。**

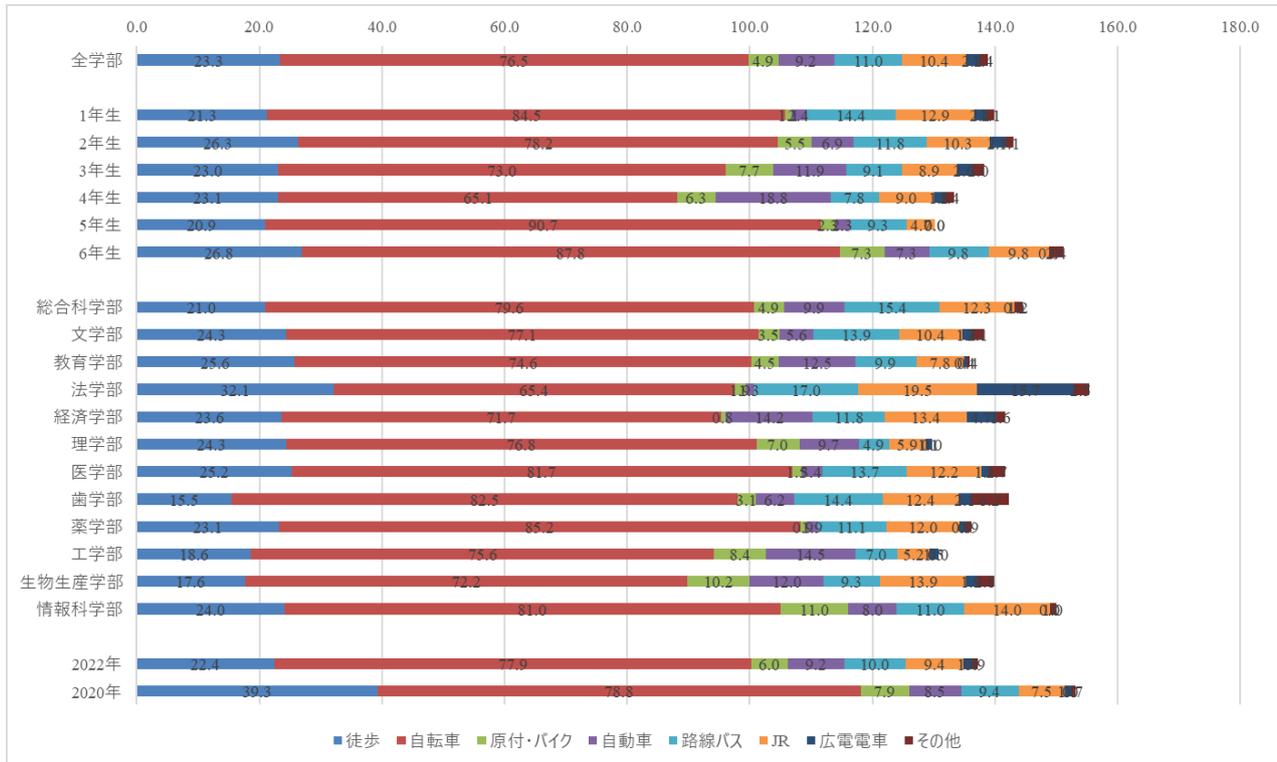
全体の傾向として、20%が実家、75%が一人暮らしとなっている。学年別に見ると1~4年生は全体傾向と大差無いが、5年生、6年生において実家暮らしが10%弱多くなっている。5, 6年生の多くが医歯薬系だからではないかと考えられる。学部別ではキャンパス立地の関係からだろうか、法、医歯薬の実家住まいの割合が他部局学生に比して高く、30%を超えている。

年度別に見ると、2020年から微増ではありが実家暮らしの学生が15%, 18%, 20%と増えている。



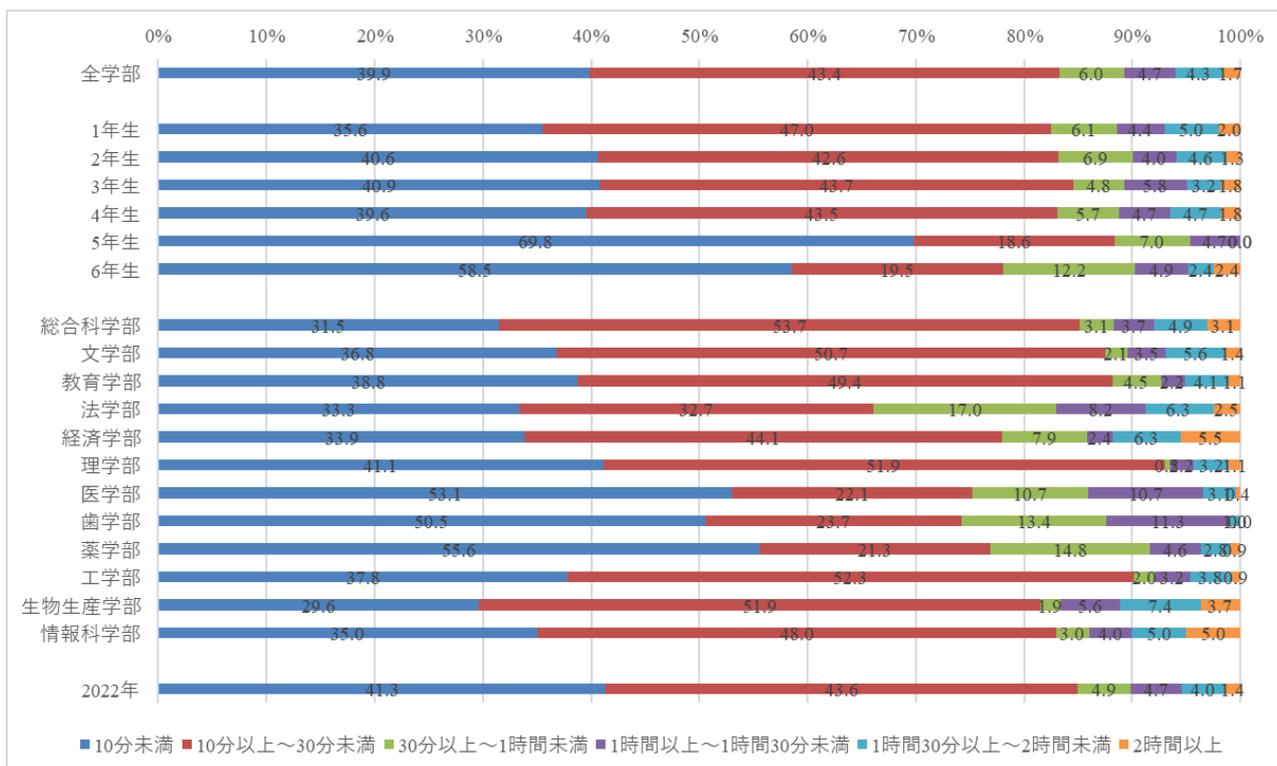
### 設問 13 主な通学方法を教えてください。(複数回答可)

全体・学部別・年度別いずれについても自転車での通学がもっとも多く、70～90%を占めている。次いで徒歩(20%前後)となっている。他の通学方法は、概ね10%前後である。若干の突出した傾向を見出すとすれば、学年が進むにつれて自動車の利用割合が増えている点、法学部の徒歩、路線バス、JR、広電の利用が他学部頼も多い点であるが、これは立地に大きく依存していると推測される。他には、立地が異なるのに経済学部・工学部では自動車利用割合が若干他学部に比して高い点に留意するべきか。また、生物生産学部・情報科学部では原付・バイク利用が若干他学部よりも高い点が気になる。年度別の傾向に大きな変化があり、徒歩通学の割合が39.3% (2020年度) から22.4% (2022年度) に大きく減少している点も留意するべきであろうか。



### 設問 14 通学にかかる時間を教えてください。

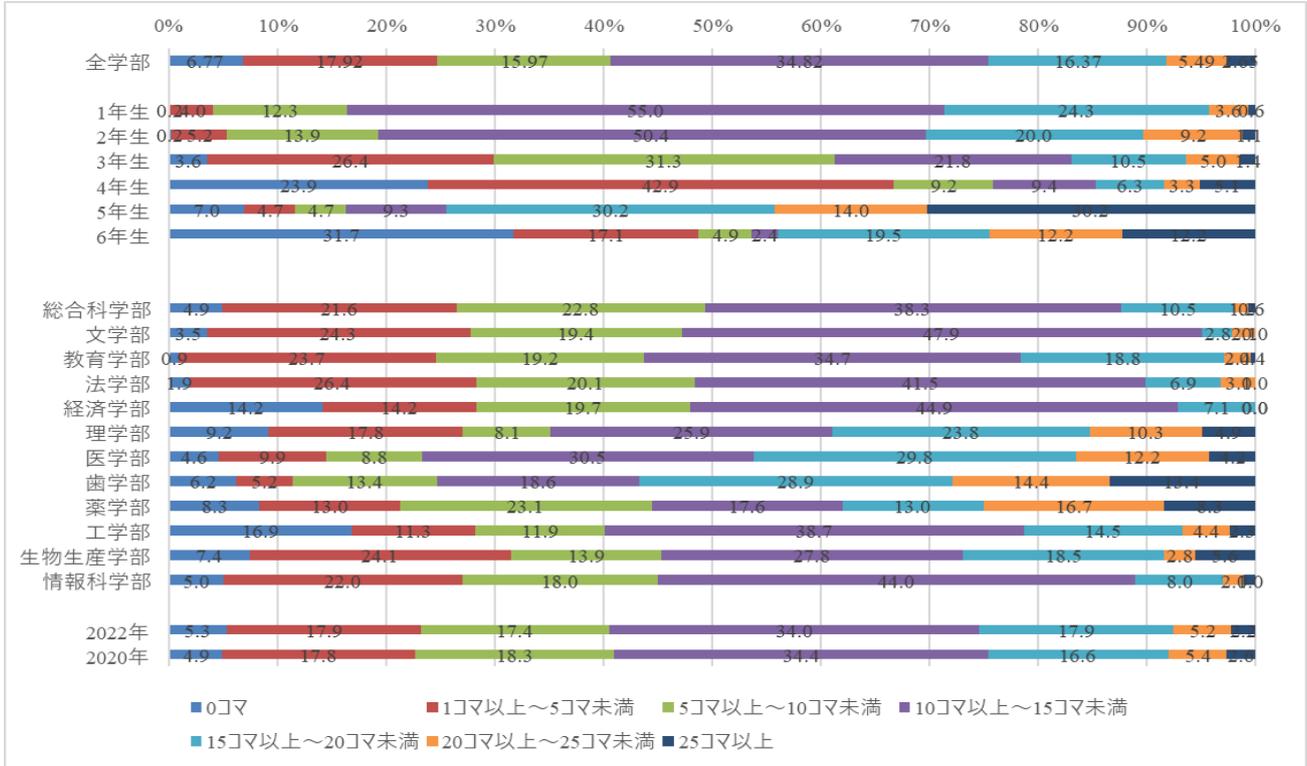
全体傾向として、10分未満が4割、10～30分未満が4割となっており、全体の8割を占めている。学年別に見ると1～4年生は全体傾向と同様であるが、5、6年生になると6割を超える。5、6年生の多くが医歯薬系だからではないかと考えられる。部局別では、医歯薬系の学生は10分未満が5割を超える。他部局は全体傾向と大差は無い。年度別では大きな変化は無い。



## 5 修学の状況

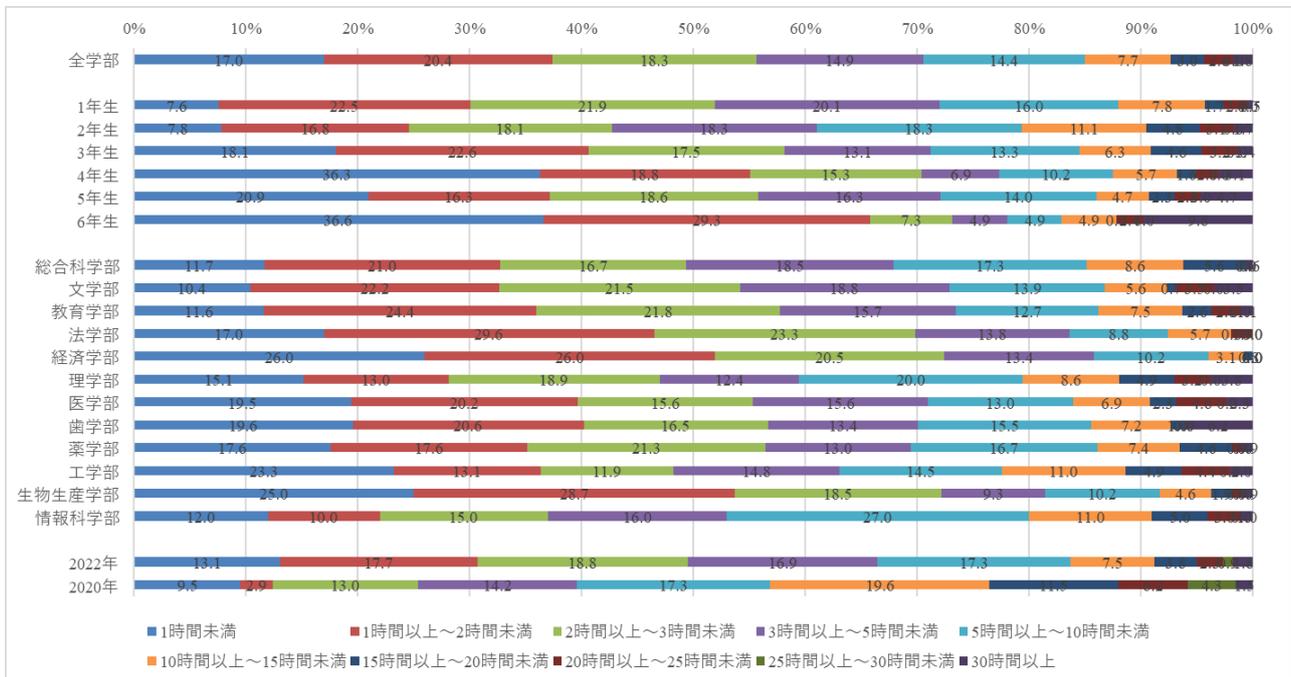
### 設問 15 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の出席にあてていますか。

全体傾向として、ボリュームゾーンは10～15コマ未満であり3割強。1～5コマ、5～10コマ、15～20コマの出席が15～17%と続いている。学年別では、1, 2年生は10～15コマの出席が多く5割を超える。3年、4年と学年進行するにつれてボリュームゾーンが5～10コマ（3年、3割強）、1～5コマ（4年、4割強）とシフトしていることがわかる。5年生、6年生はおそらく医歯薬系の専門性（資格試験対策等）が反映されているように思われ、5年生では15～20コマの出席が3割強と最も多くなっており、6年生は0コマの学生が3割強と最も多くなっている。2020年度からの推移については、あまり大きな変化は無いと言える。



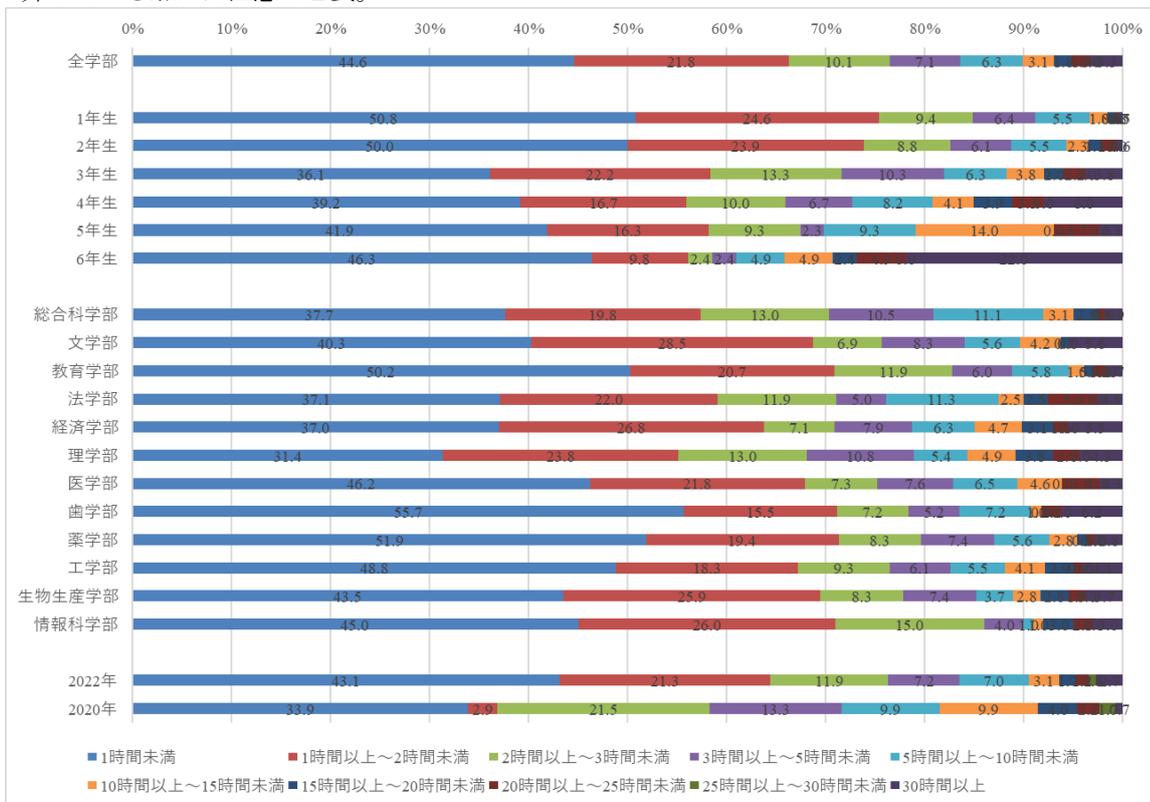
### 設問 16 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習などにあてていますか。

全体傾向として、1時間未満、1～2時間未満、2～3時間未満、3～5時間未満、5～10時間未満それぞれについて、おおよそ15%前後の割合となっている。学年別では、学年進行にともなって学習時間が減少する傾向にあり、1, 2年生では1時間未満の学習時間としている学生が1割に満たないが、3年生になると20%近く、4年生になると30%を超える。5, 6年生はおそらく医歯薬系の専門分野固有の問題が反映していると推測される。学部別で見ると学習時間が1時間未満の割合が比較的高いのは、経済学部、工学部、生物生産学部であり、25%前後に達している。年度では、2020年度から学習時間1時間未満の割合が9.5、13.1、17%と漸増している点には注意が必要。



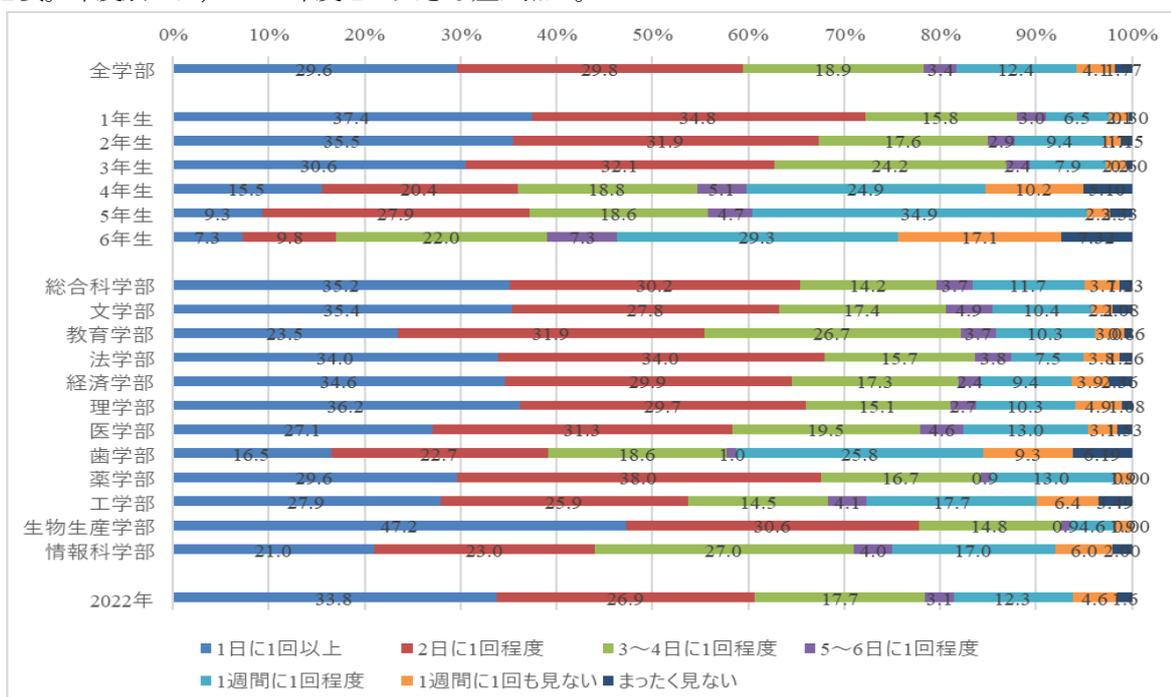
### 設問17 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

全体傾向として、4割を超える学生が1時間未満の時間しか割いていない。学年別では、1、2年生で1時間未満の時間しか割いていない学生は5割を超えるが、その割合が3年生には3割強に減少するものの、学年進行に伴いその割合が微増する傾向にある。学部別では、どの学部でも3割を超える学生が授業外の勉強をする時間を1時間未満と答えている。特にその割合が高いのは教育学部、歯学部、薬学部、工学部である。注意すべきは、これら部局の学生が授業外の（自主的な）勉強に消極的なものでは必ずしも無い点であり、資格や専門性の高さから、授業外の学習に時間をつぎ込む必要が無い、あるいはそのゆとりが無い可能性もある点には留意する必要がある。年度別で見ると2020年度に比して、授業外学習時間が1時間未満の学生の割合が10%上昇している点には注意が必要。



### 設問18 Myもみじを確認する頻度はどれくらいですか。

全体傾向として3割の学生が1日1回または2日に1回程度、2割近くの学生が3～4日に1回Myもみじを確認している。一週間に1回程度かそれを下回る確認頻度の学生が2割強存在している点には注意が必要だと思われる。学年別では、学年進行に伴い、Myもみじを確認する頻度が大きく減少している。おそらくは履修する授業の減少に伴い、連絡等の確認頻度が下がってくると思われる（必要に応じて履修科目との相関を検討する必要がある）。学部別で見ると教育学部、歯学部、情報科学部における確認頻度が若干低い点には注意が必要。年度別では、2022年度との大きな差は無い。



### 設問 19 My もみじで最も多く確認する掲示情報はどれですか。

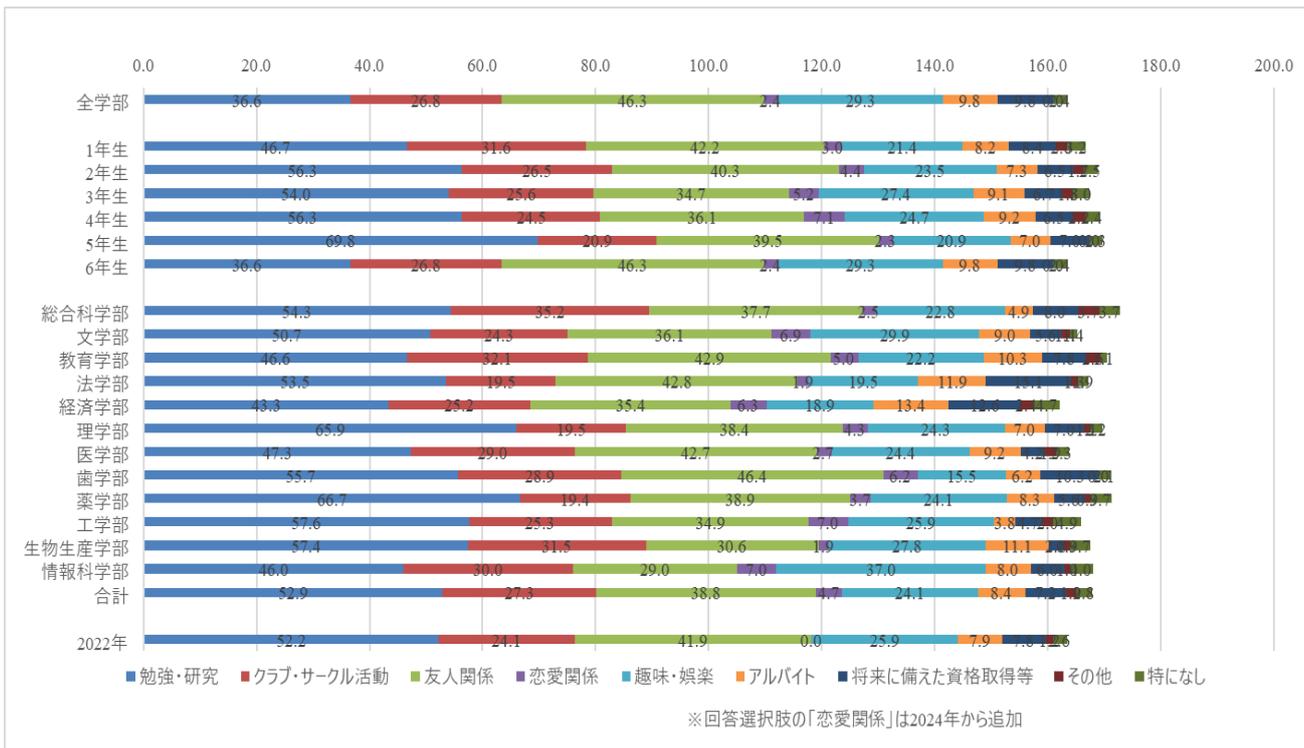
全体傾向として、4割が授業掲示、5割強が個人掲示を確認すると回答しており、合計で9割を超える。学年別では、1,2年生の5割は授業掲示、4割が個人掲示を確認すると回答しているが、学年進行に伴い、授業掲示の確認が減少し個人掲示の確認割合が増加している。部局別で見ると、部局間の差が大きい。授業掲示を確認する学生割合が高いのは薬学が突出しており、57%に達している。他の部局は5割を下回っている。年度別では、2022年度に比して、授業掲示の確認割合が15%以上低下している点には注意が必要である。



## 6 学生生活の状況

### 設問 20 大学生活において特に大切にしているものは何ですか。(複数回答可)

2022年度の調査と比較して、全体として勉強・研究を大切にしている学生の割合が15.6%減少している。部局別では、文系と比較して理系学部は勉強・研究に占める割合が概ね50%以上と高いが、情報科学部では46%と低い。一方、2022年度と比較して、プライベートを重視する傾向が認められた。これは2022年度がコロナ禍であったことから、プライベートに比重を置いた生活に戻りつつあると推察できる。



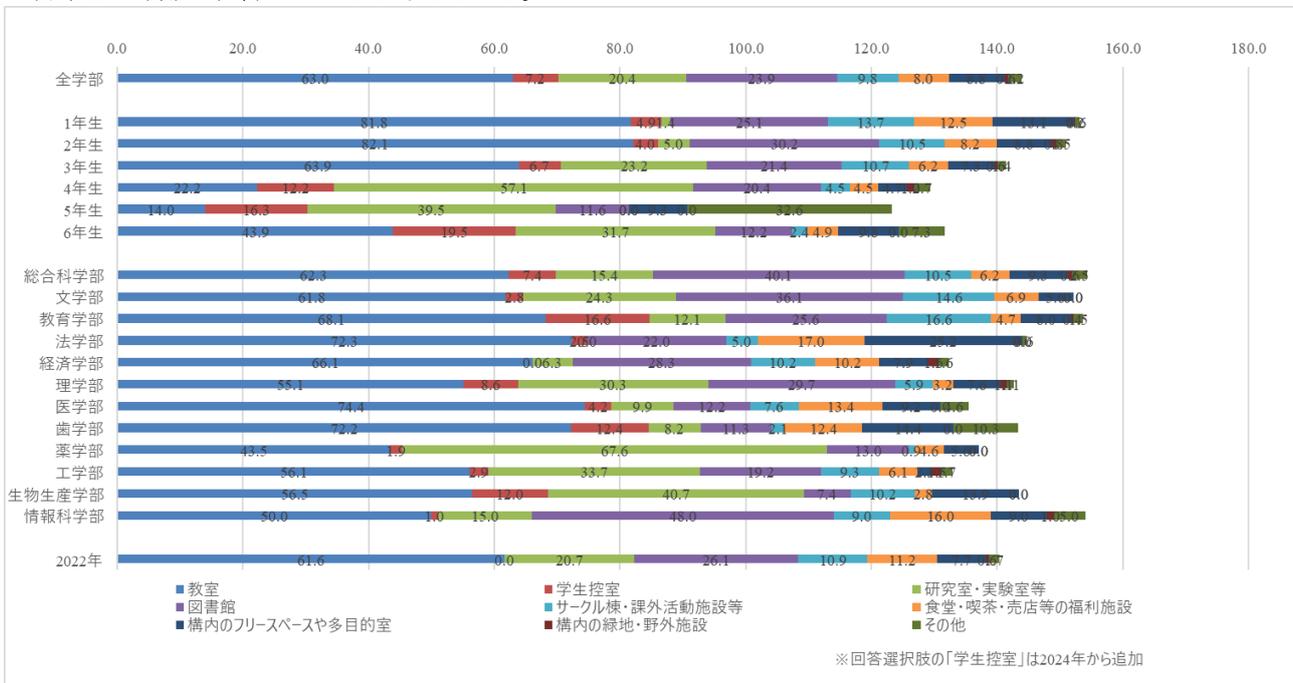
### 設問 21 授業期間中、平均して1日に大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

大学構内での滞在時間は、82.7%が3時間以上であり、コロナ後、原則対面での授業としたことにより、滞在時間が延びたと推察される。また、学年の進行により6時間以上の滞在比率が増加する傾向にあり、理系学部でその傾向は顕著である。一方、情報科学部は、3時間未満の滞在比率が他学部と比較して高く、これは情報科学の授業特性（オンライン等）によるものと推察される。



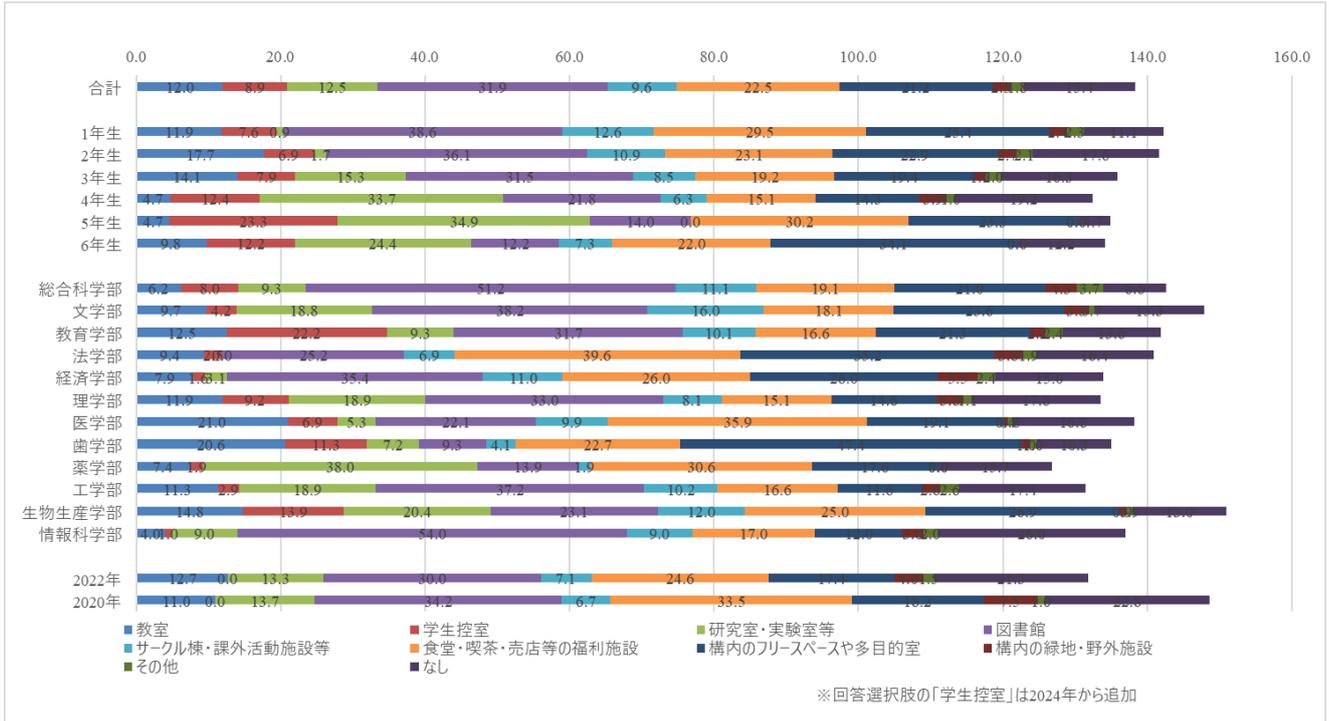
### 設問 22 大学構内の滞在時間のうち、多く滞っている場所はどこですか。(複数回答可)

多く滞る場所は、教室が63%と最も多い。学年別で見ると、学年進行により研究室等での滞在時間が長くなる傾向にあった。またこの傾向は、理系学部によく認められた。図書館での滞在は、部局別で異なり、図書館との距離が影響していると考えられる。



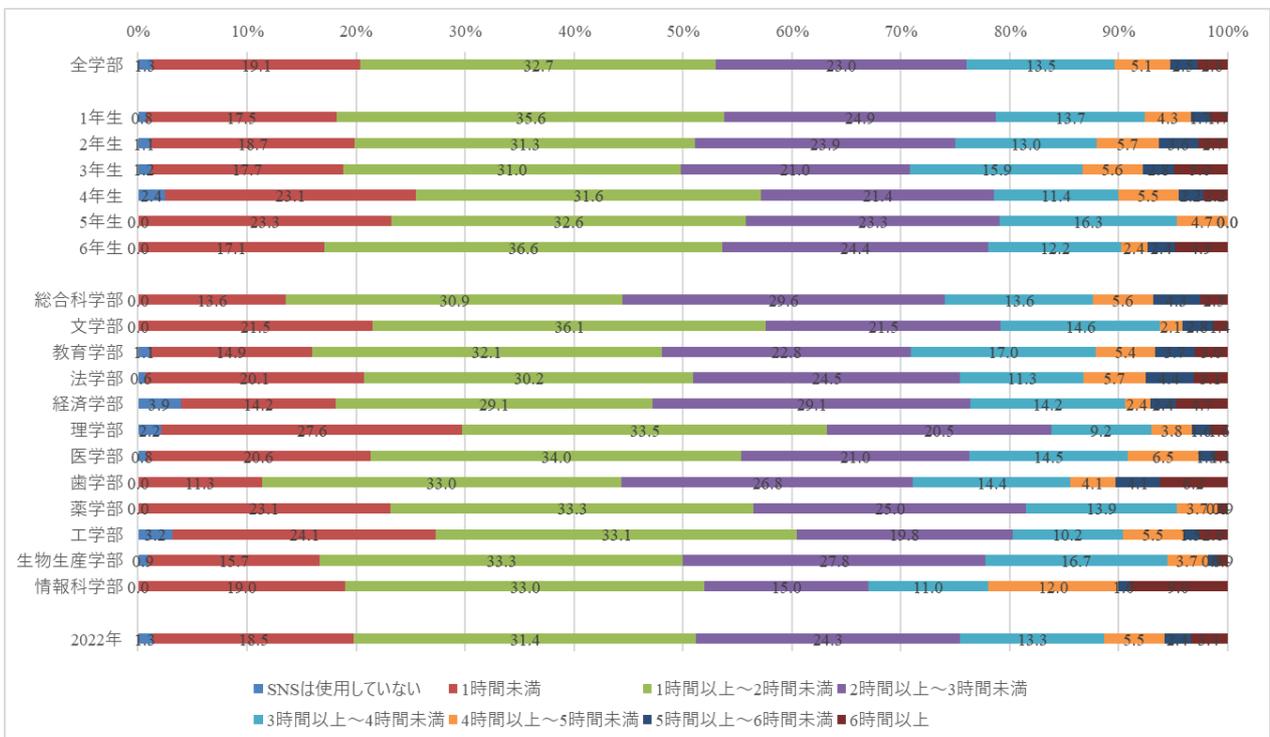
### 設問 23 大学構内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

設問 22 では教室での滞在時間が 63%と最も高かったが、くつろげる場所としては 12%と低く、図書館が 31.9%と最も高く、特に低学年で高値を示した。学年進行に伴い、学生控室、研究室等がくつろげる場所として選択されていた。以上のことから、学生は個人スペース、比較的少人数で過ごせる場所でくつろいでいると推察される。



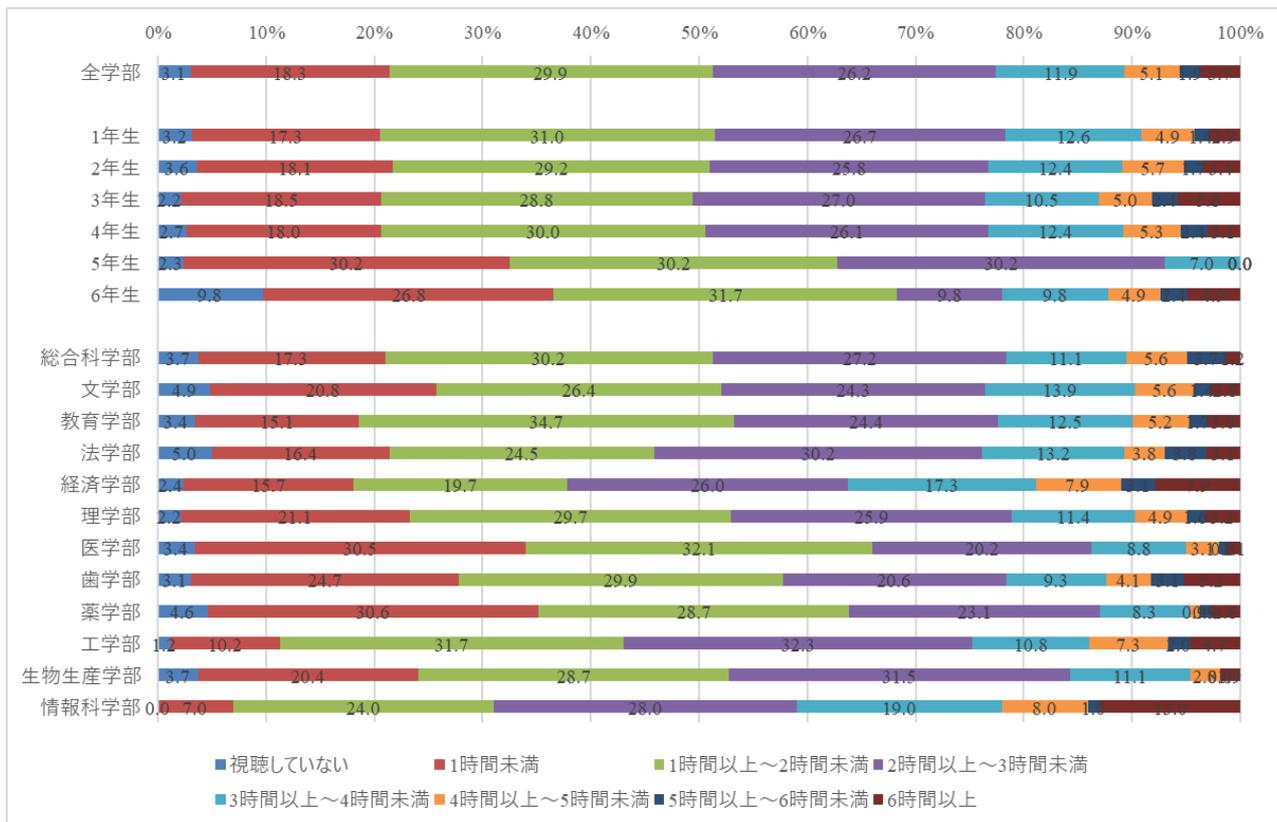
### 設問 24 Instagram・LINE・BeReal・X・Facebook・WeChat 等の SNS (Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」学部生は 1.3%、1 時間未満は 19.1%であり、1~2 時間は 32.7%、2~3 時間は 23%、3 時間以上は 23.9%であった。この傾向は 2022 年度の調査と同様であり、学生の 75% は、1 日の内、1~3 時間程度を SNS に費やしており、大学生にとって、SNS は情報収集、コミュニケーションツールとして生活に浸透していることが推察される。



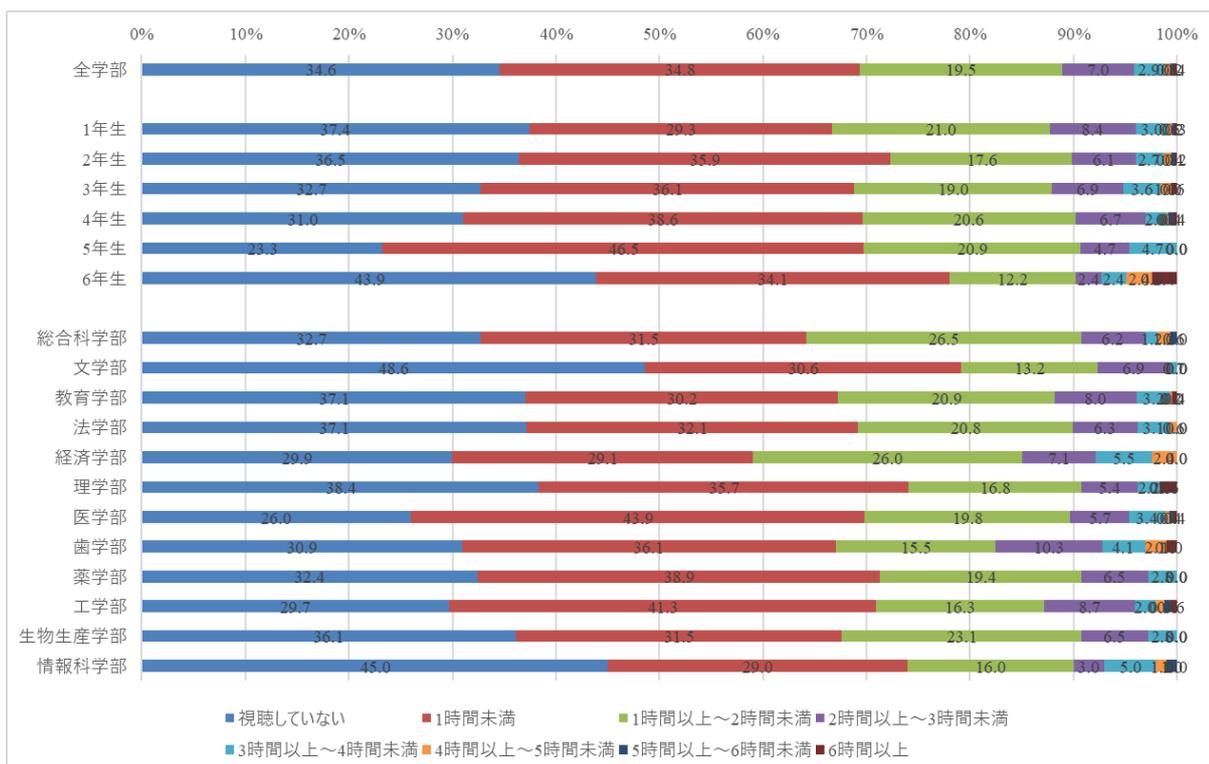
**設問 25 平均して1日に、YouTube・TikTok等の動画共有サービスの視聴にどれくらいの時間をあてていますか。**

SNSと同様に動画共有サービスに関しても、視聴していない学生は全体の3.1%であり、1時間未満は18.3%であり、1～2時間は29.9%、2～3時間は26.2%であった。したがって、学生の75%強が、1日の内、1～3時間ほど動画共有サービスを視聴していた。また多くの大学生が、設問24のSNSおよび動画共有サービスを情報入手および共有ツールとして利用していると考えられる。情報科学部に関しては、1時間未満の割合が他学部と比較して顕著に低く、また視聴していない学生が0%であったことは特徴的である。



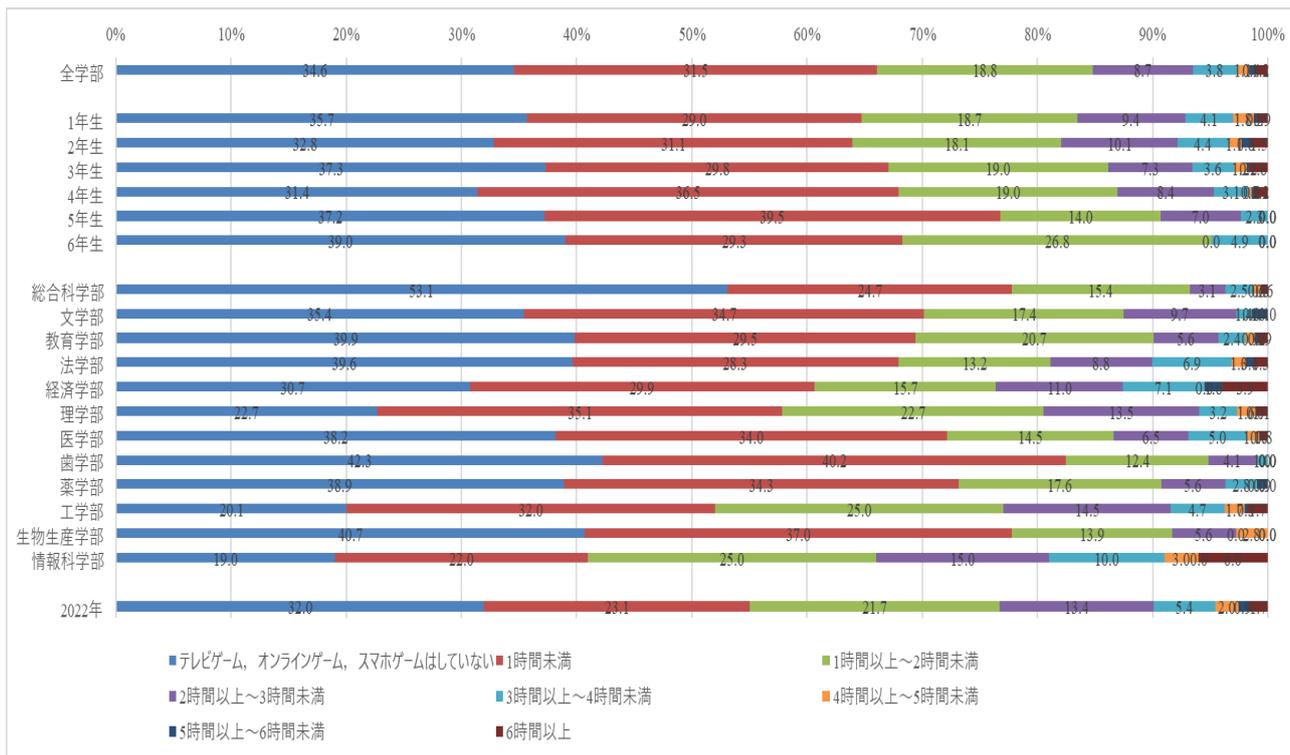
**設問 26 平均して1日に、Netflix・Amazonプライムビデオ・U-NEXT等の動画配信サービスの視聴にどれくらいの時間をあてていますか。**

設問24, 25とは異なり、有料の動画配信サービスの視聴では、利用していない学生は34.6%と多く、1時間未満が34.8%、1～2時間が19.5%であった。このことから、学生は無料の動画配信、共有サービスを利用する傾向にあることが推察される。



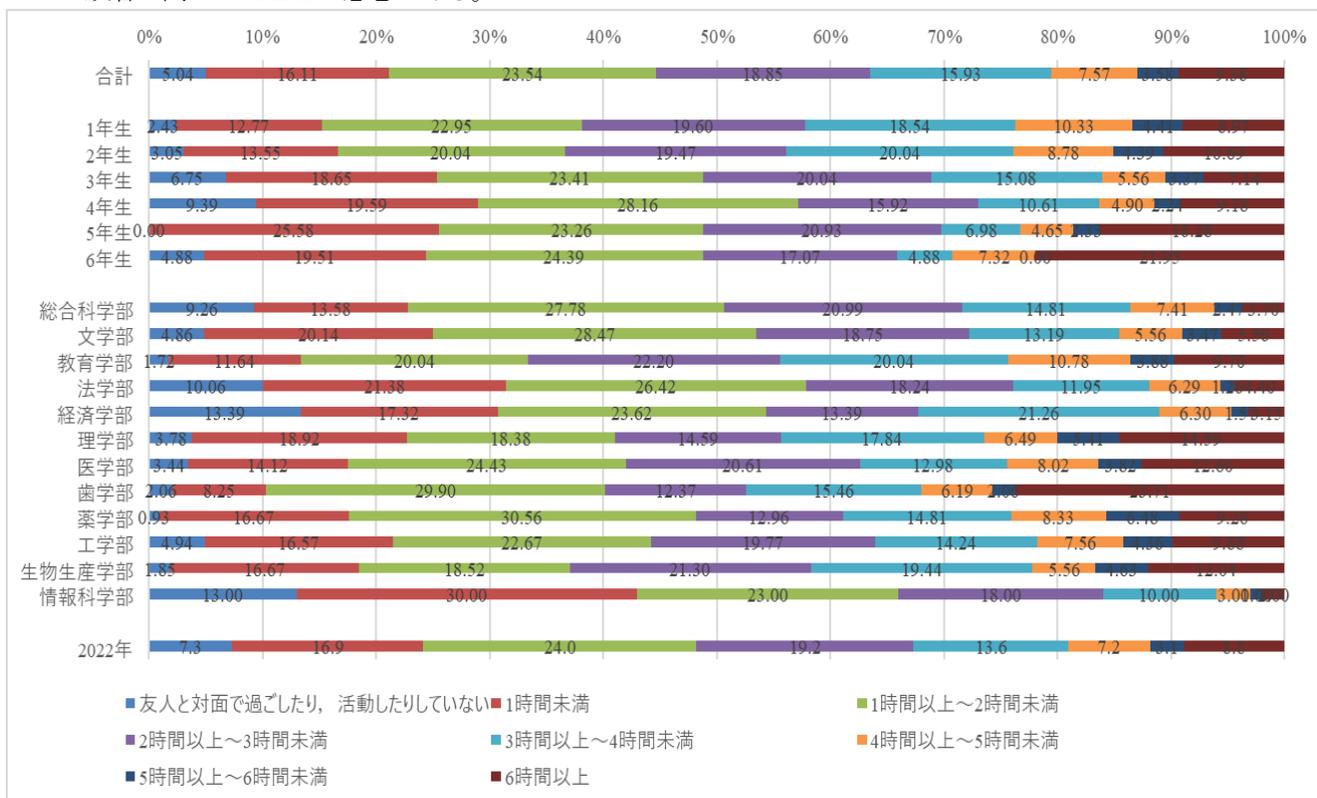
**設問 27 平均して1日に、テレビゲーム、オンラインゲーム、スマホゲームにどれくらいの時間をあてていますか。**

ゲームに関しては、利用していない学生が34.6%と多く、1時間未満が31.5%、1～2時間が18.8%であり、有料の動画配信サービスと同様の傾向であった。このことから、学生は無料の動画配信、共有サービスに1日の内、多くの時間を費やしていると推察される。



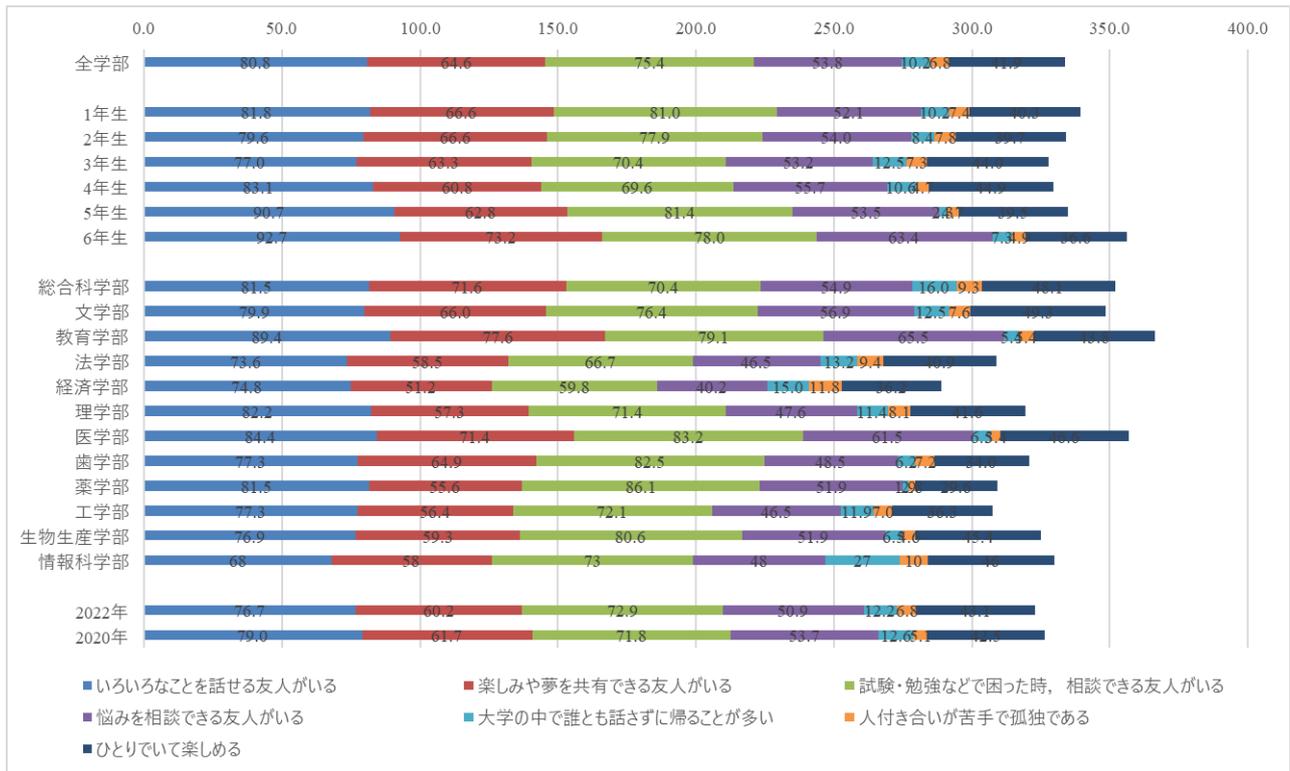
**設問 28 平均して1日に、どれくらい友人と対面で過ごしたり、対面で一緒に活動したりしていますか。**

友人との活動に関しては、2022年度調査と同様の傾向にあり、学生の58%が、1～4時間程度、友人と過ごしていたが、部局間でのバラツキが大きかった。情報科学部においては、「友人と対面で過ごしていない、活動していない」または過ごしたり活動していてもその時間が「1時間未満」の割合が合計で43%と他部局と比較して顕著に高かったことが懸念である。



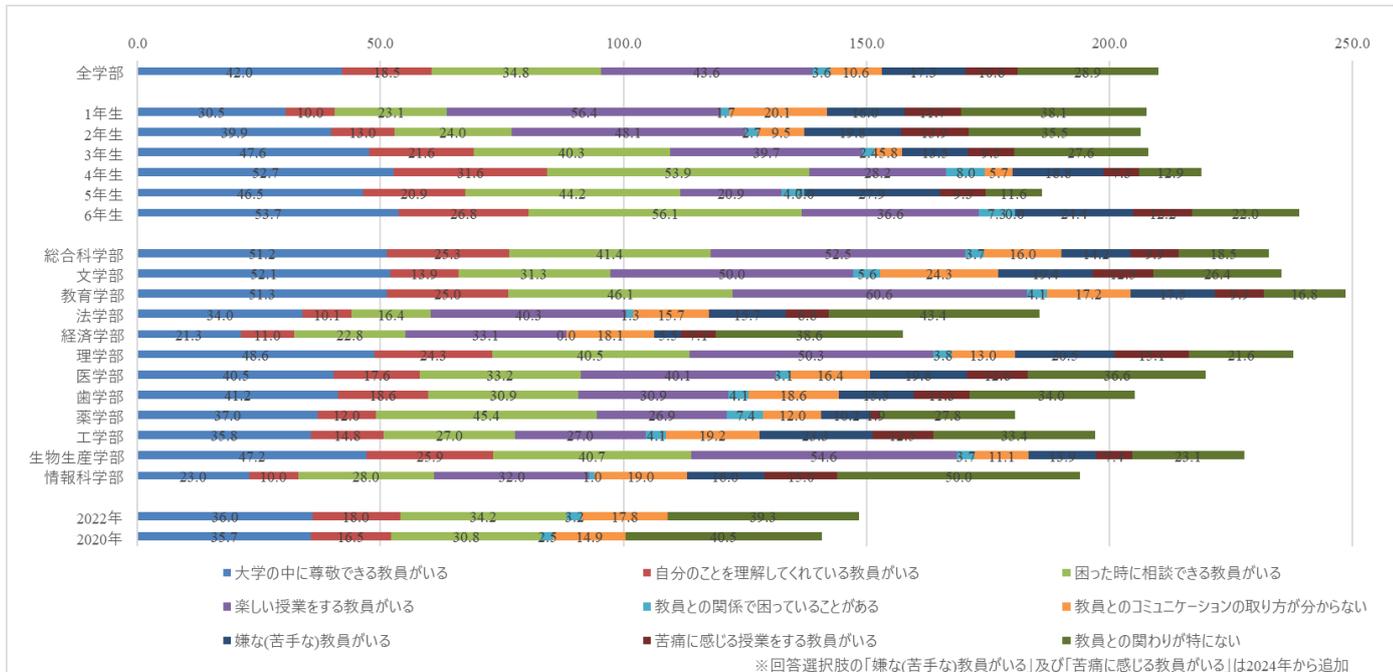
### 設問 29 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

全体では、学部生の約4人に3人は、「いろいろなことを話せる友人がいる」、「楽しみや夢を共有できる友人がいる」、「試験・勉強などで困った時、相談できる友人がいる」と回答している。一方、「人付き合いが苦手で孤独である」と回答する学部生の割合は6.8%でこれまでの調査と同様である。「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」は10.2%で、2022年度の調査(12.2%)以前と比較して減少傾向にあった。



### 設問 30 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

「大学の中に尊敬できる教員がいる」「自分のことを理解してくれる教員がいる」「困った時に相談できる教員がいる」の設問への回答の割合が4年生まで学年が上がるにつれ増加している一方で、「教員との関りが特にない」という回答が6年生の22.0%にみられ、多くの学生が教員との間に信頼関係を構築して言っているが、卒業時まで教員との間に信頼関係を構築できない学生が一定数いることがわかった。



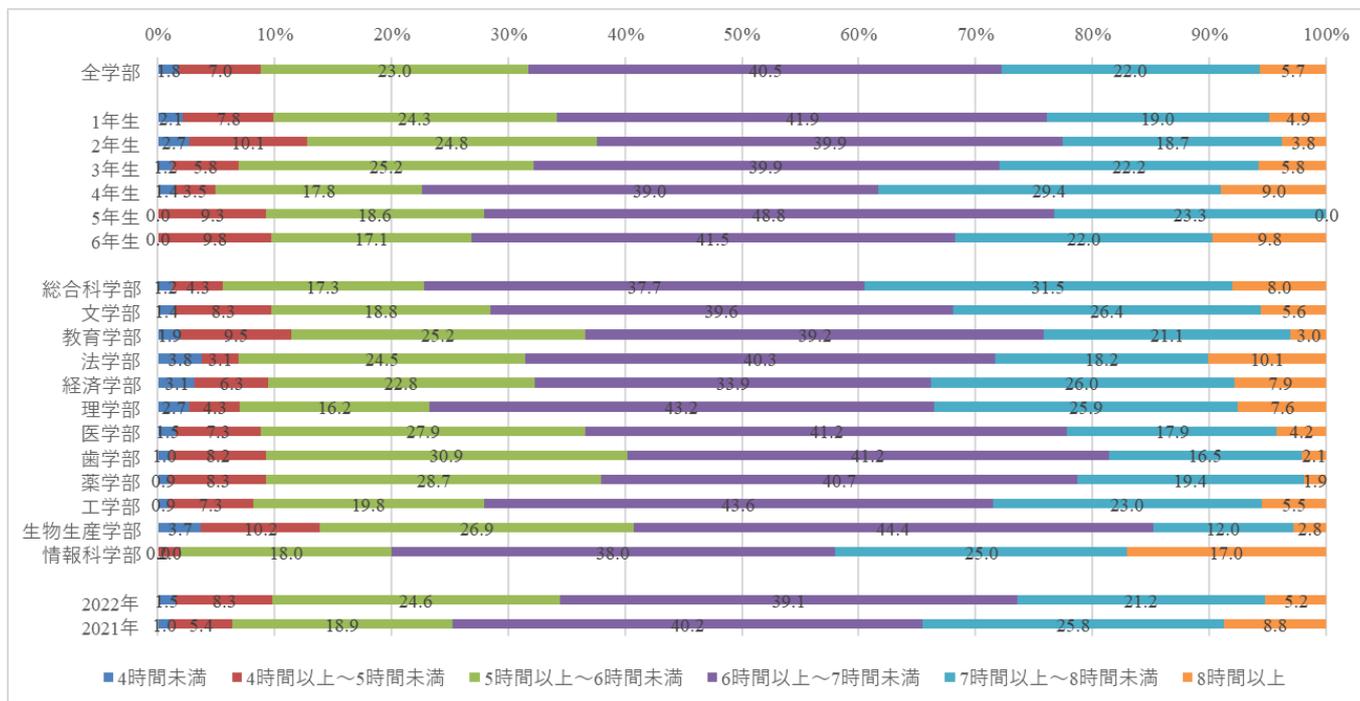
### 設問 31 授業期間中は、規則正しい生活が送れていますか。

「送れている」が26.0%、「まあまあ送れている」が46.3%であり、割合を合計すると、全体の72.3%の学生が規則正しい生活を送れていると回答しているが、学部間のばらつきがあり、歯学部は87.6%、情報科学部では57%と大きな差があった。



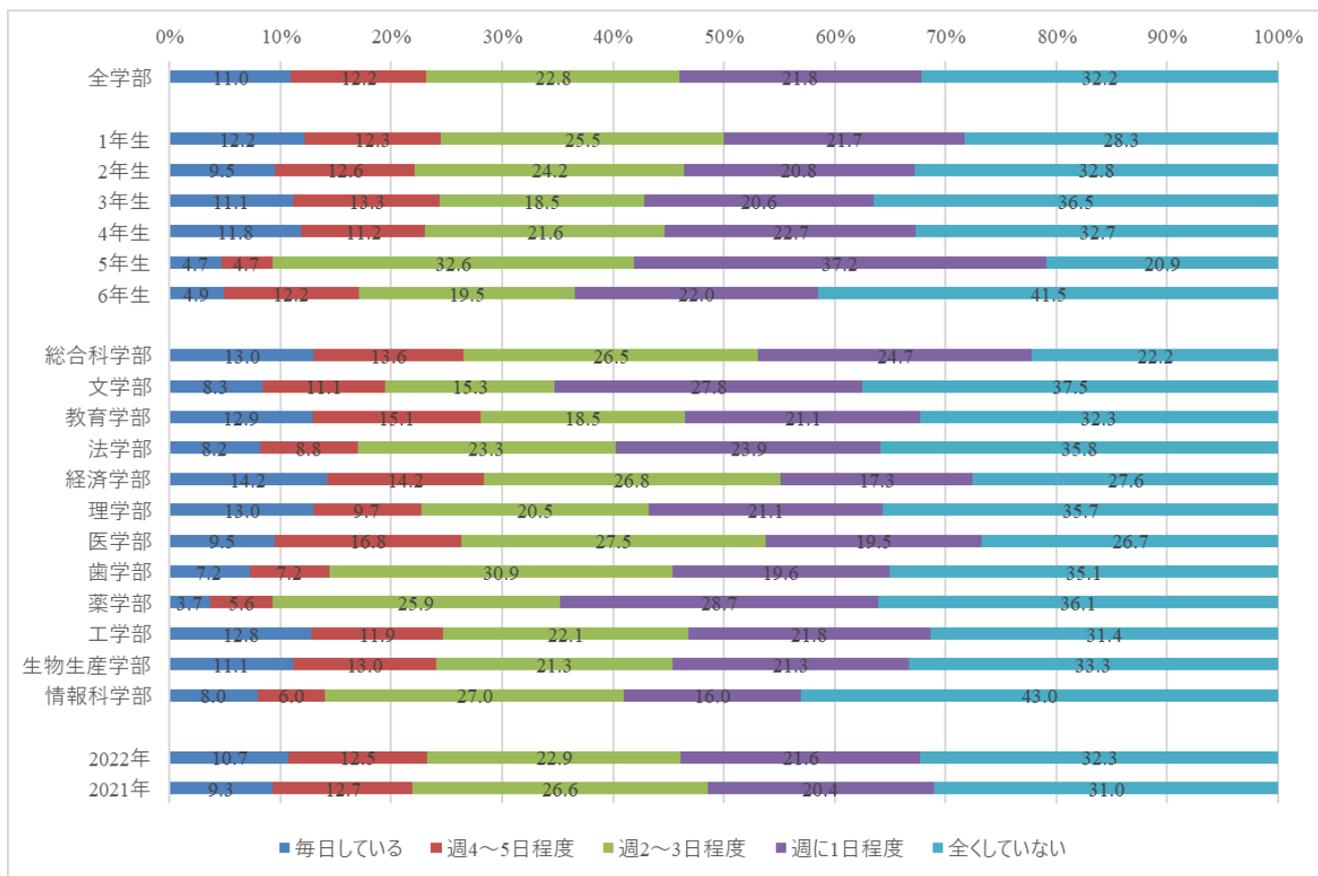
### 設問 32 現在の平均睡眠時間は何時間くらいですか。

健康維持のために必要な睡眠時間には個人差があるが、睡眠が不足していると考えられる5時間以下の睡眠しかとれていない学生が全体の8.8%おり、特に2年生が12.8%と多いことがわかった。



### 設問 33 現在、定期的に運動（1日30分程度）をしていますか。

個人差が大きく、全体の32.2%の学生が、全く運動をしていないと答えた。コロナ禍だった2021年から、年による変化はほとんど見られていない。



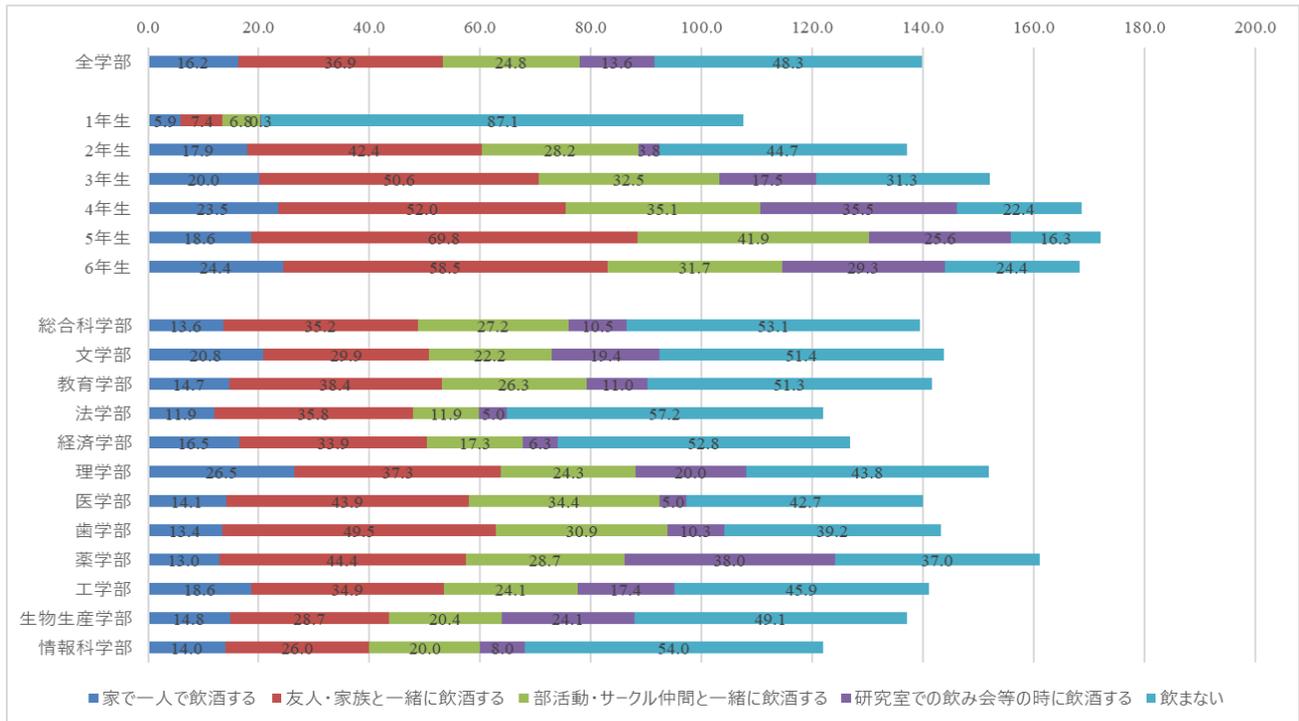
### 設問 34 喫煙の習慣がありますか。1日に吸う本数をお答えください。

全体の96.9%が非喫煙者である。一方で、1日に11本以上吸う学生が全体の0.6%存在する。



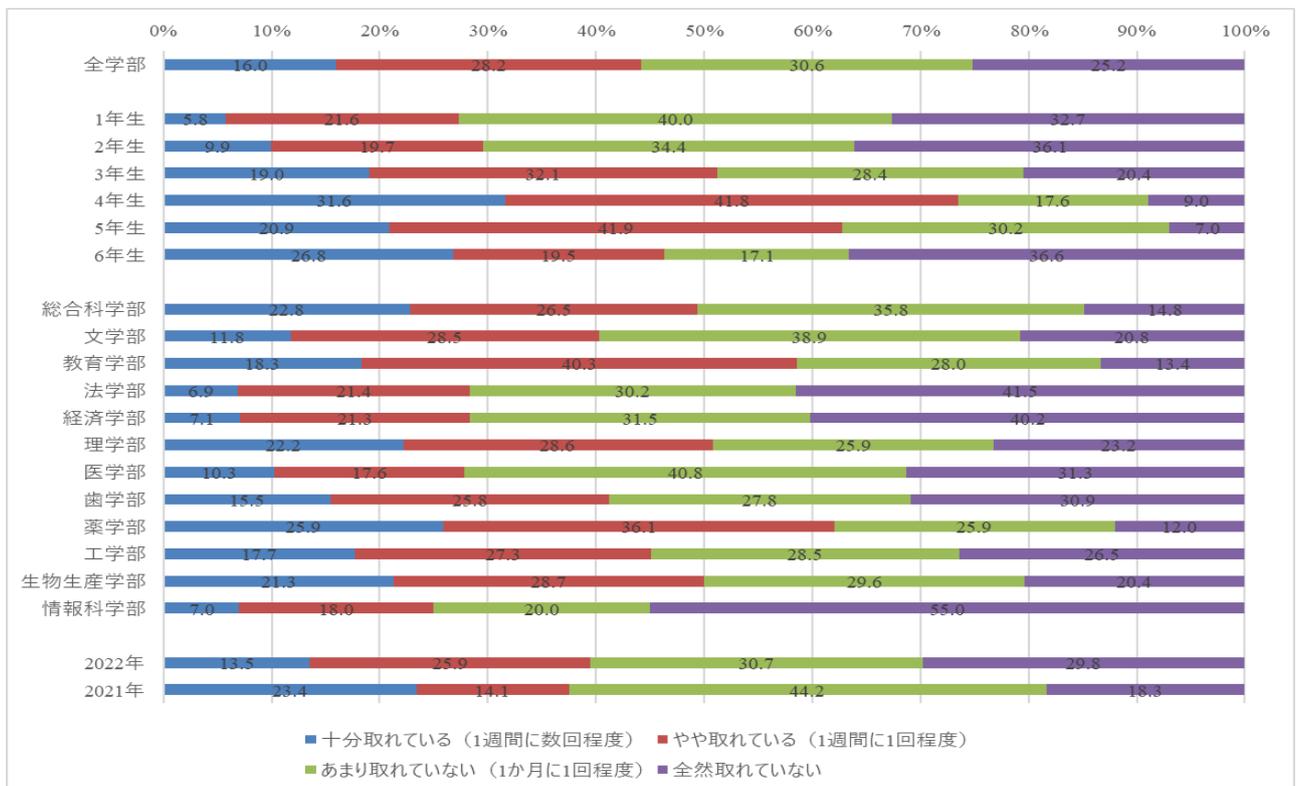
### 設問 35 飲酒の習慣がありますか。(複数回答可)

学生全体では、約半数が飲酒者であった。多くの学生が、成人を迎えた2年生時に飲酒を開始し、誰かと一緒にの社会的飲酒がほとんどで、家で一人での飲酒は全体の16.2%と少ないことがわかった。



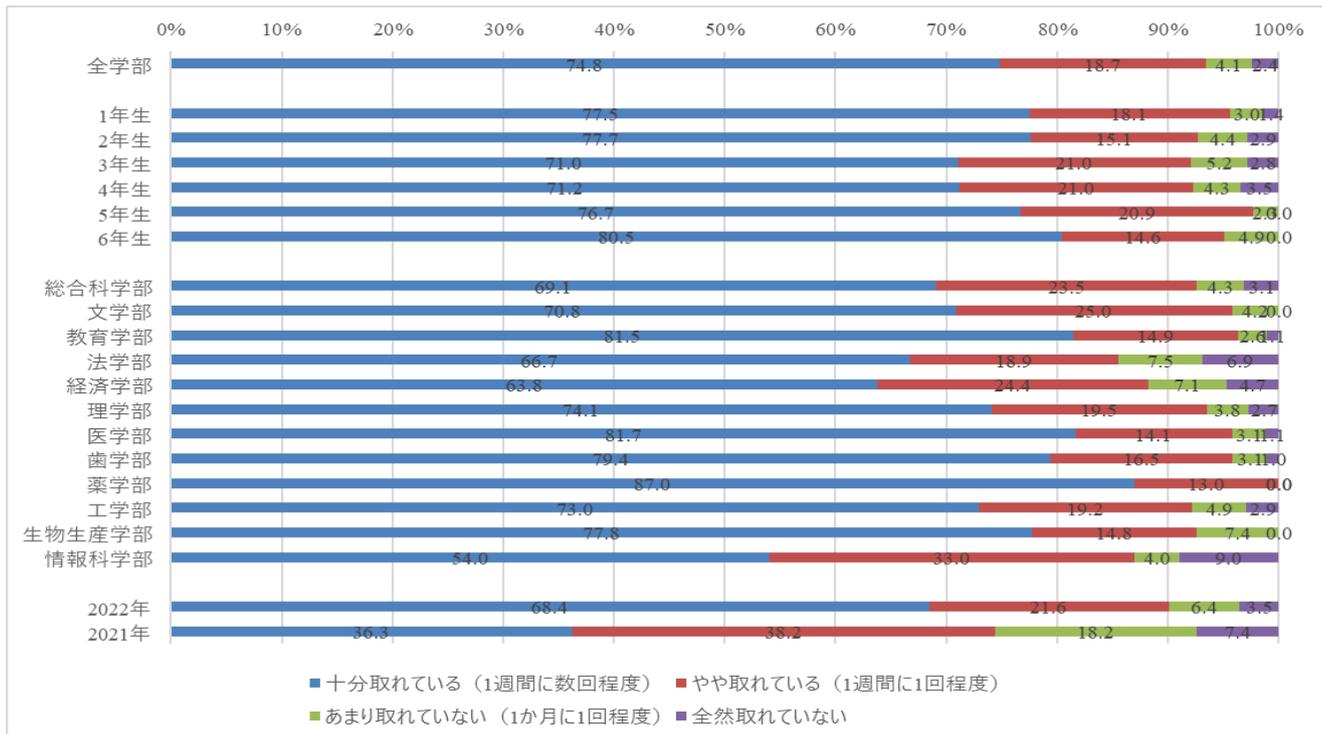
### 設問 36 今年度、教員（指導教員，チューター含む）とコミュニケーションが取れていたと感じますか。

3年生あるいは4年生から、ゼミや研究室への配属後に、教員とのコミュニケーションが大幅に増えている。しかし「全然取れていない」と回答した学生の割合が、5年生では7.0%まで減少しているにも関わらず、6年生では36.6%となっている。また学部によって差があり、情報科学部では過半数の55.0%が「全然取れていない」と回答している。これらの意味と改善の必要性を検討する必要があるだろう。



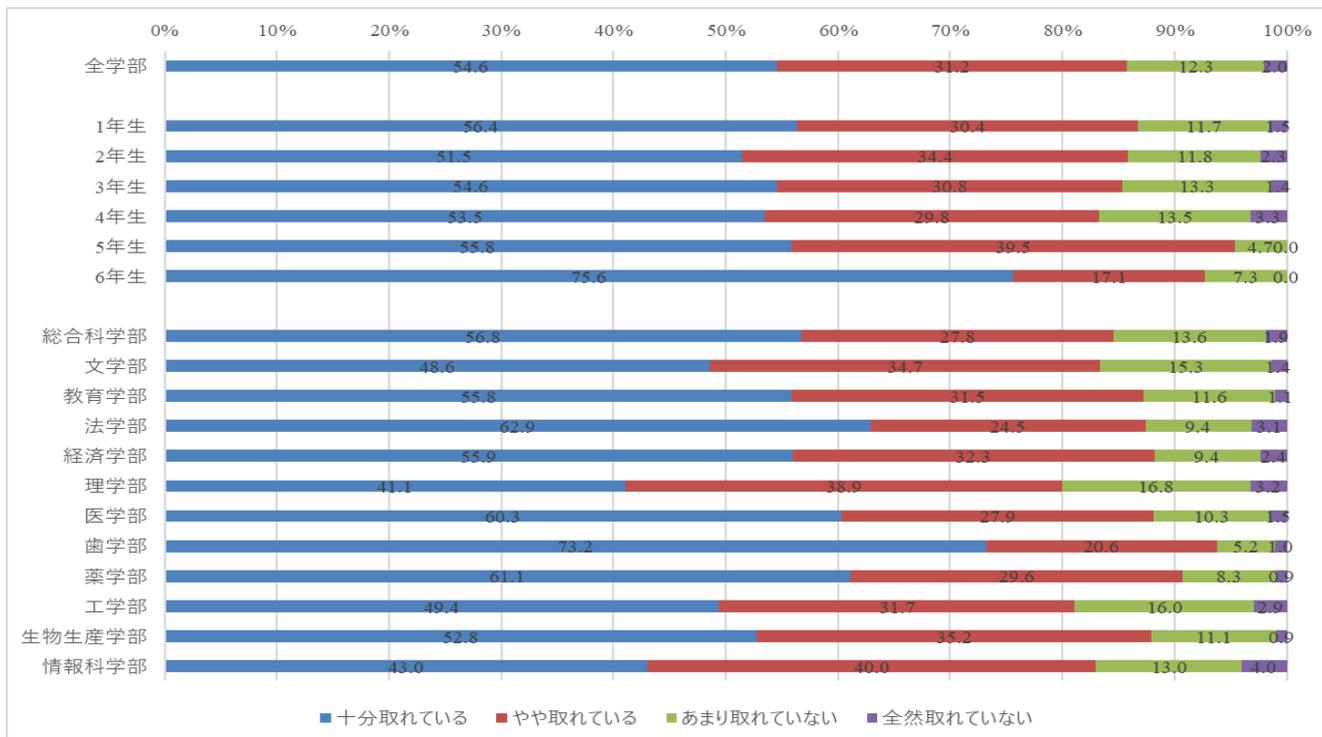
**設問 37 今年度、同級生や友人とコミュニケーションが取れていたと感じますか。**

全体の74.8%が、「十分に取れている」と回答した。4.1%が「あまりとれていない」、2.4%が「全然取れていない」と回答しており、少数であるが、学生間の人間関係から疎外されている学生が存在していることが分かった。



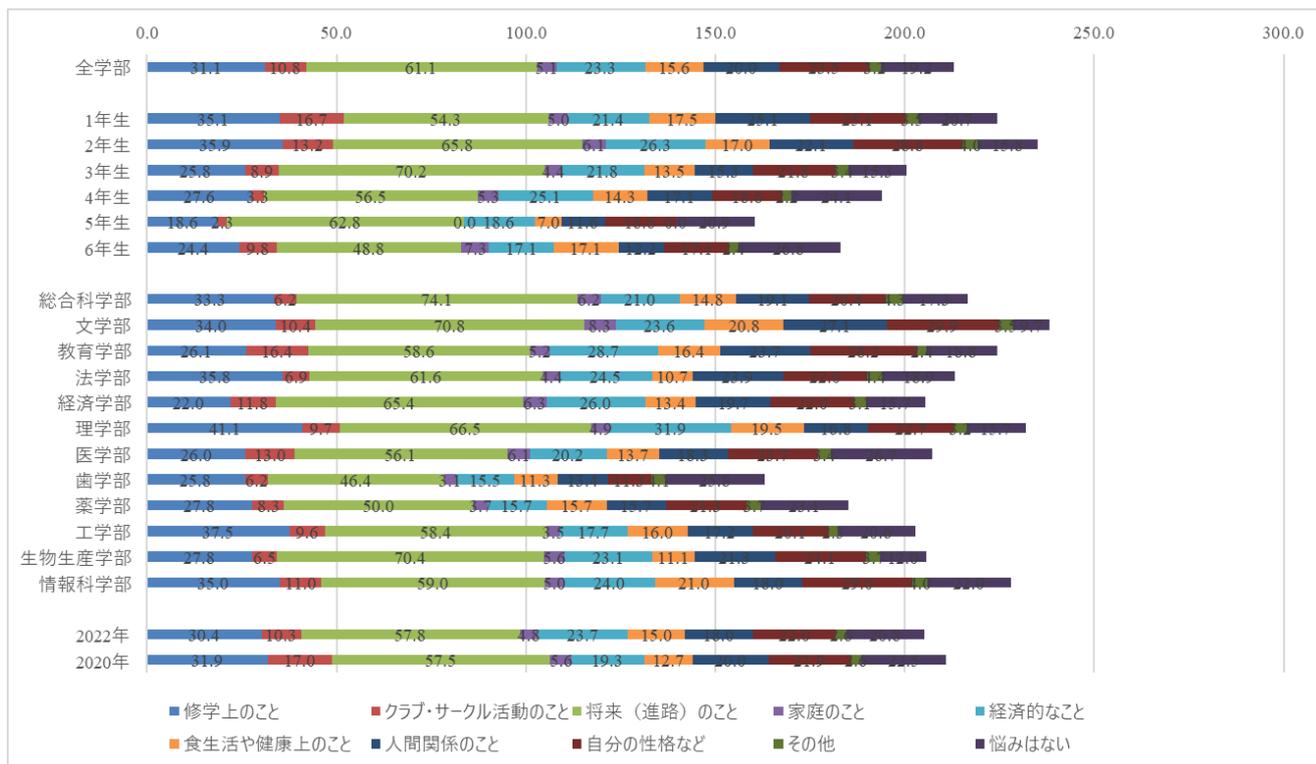
**設問 38 今年度、家族とコミュニケーションが取れていたと感じますか。**

全体の54.6%が「十分とれている」、31.2%が「やや取れている」と回答しており、合計85.8%の学生が家族とのコミュニケーションを取れているが、2.0%は「全然取れていない」と回答している。



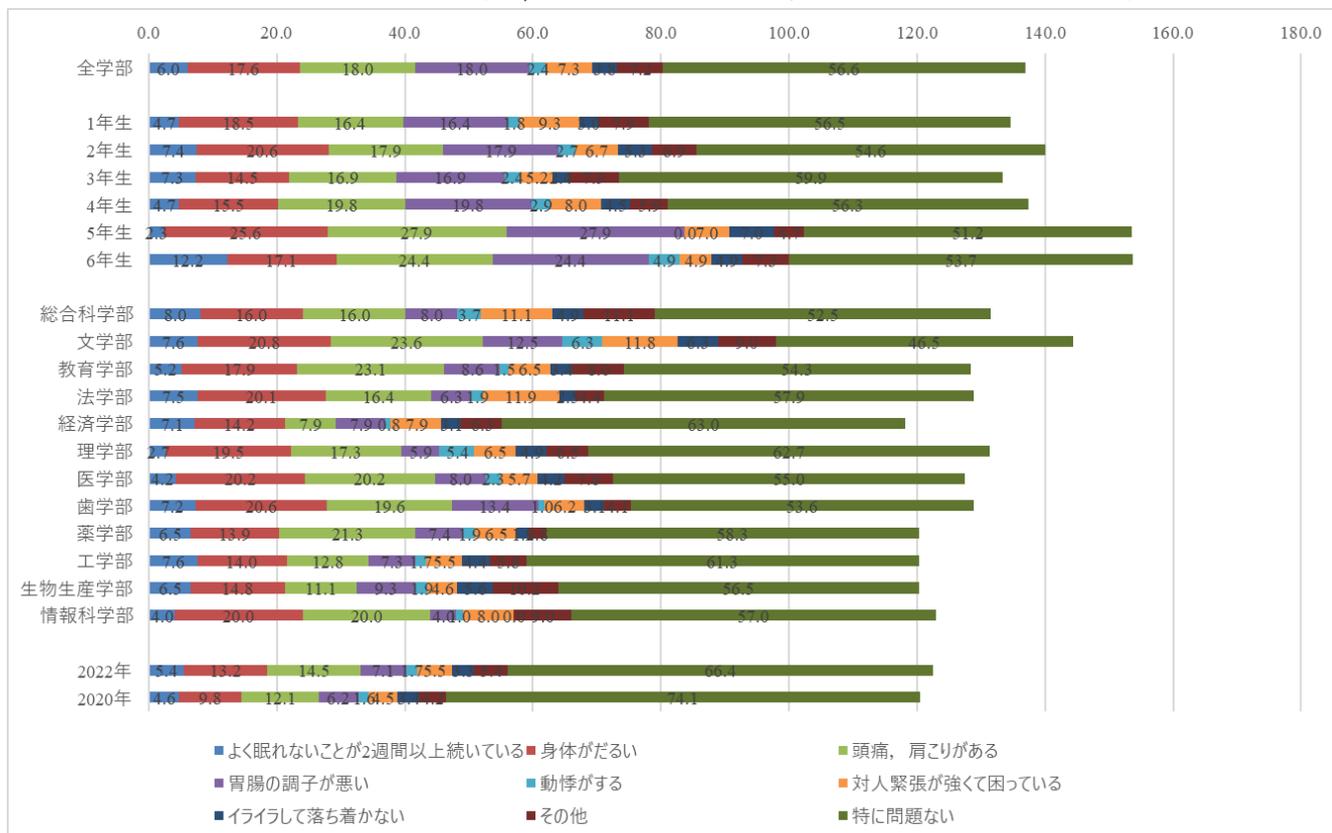
### 設問 39 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

学生の悩みが一番多いのが「将来（進路）のこと」(61.1%)、次に多いのが「修学上のこと」(31.1%)、その次は「経済的なこと」(23.3%)、「人間関係のこと」(20.0%)、「自分の性格など」(23/6%)が同じくらい多かった。



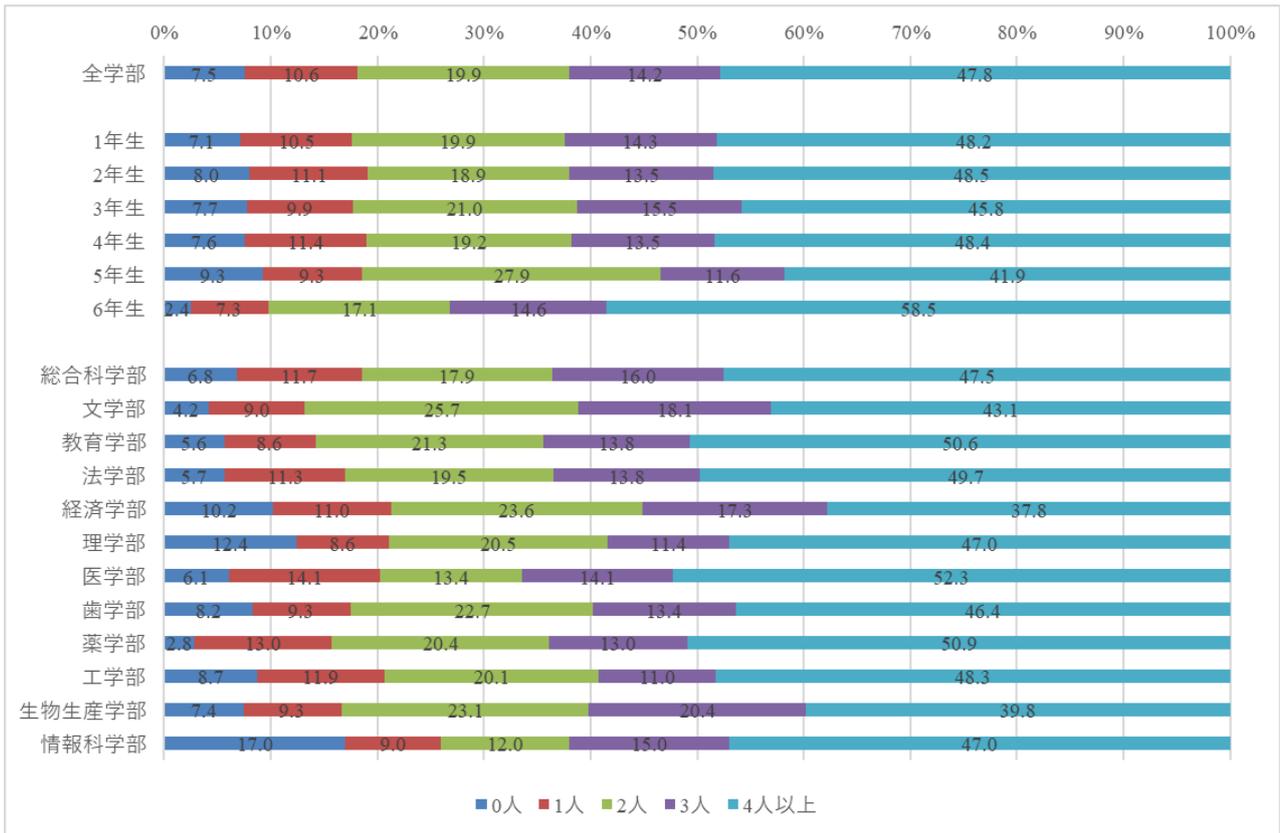
### 設問 40 現在の健康状態はどうですか。(複数回答可)

1~4年生では有意差は認められない。5,6年生では顕著に頭痛、胃腸が悪いとの回答が多い。



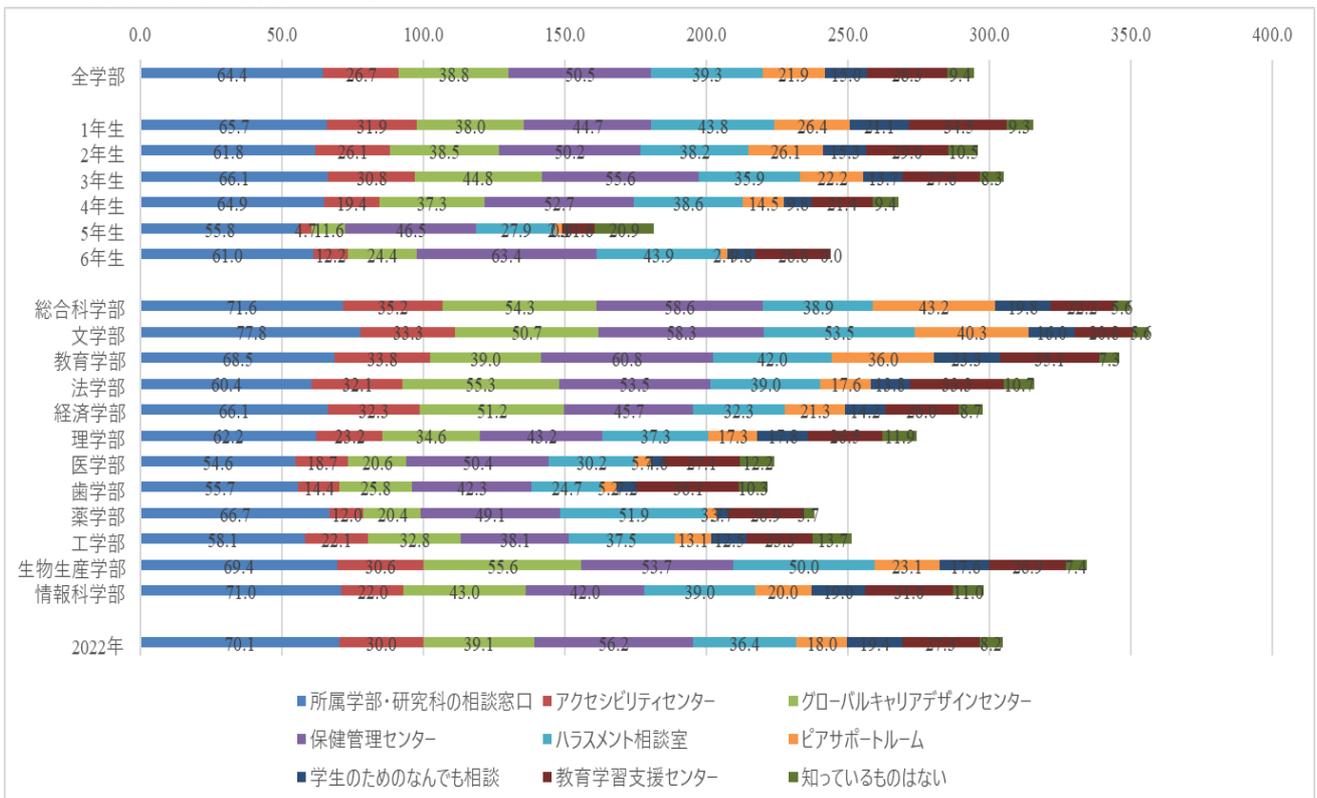
### 設問 41 悩みを相談できる相手は何人いますか。

1～4年生では有意差は認められない。5年生は2人が顕著に多く、6年生は0人が顕著に少ないことから、医学科、歯学科、薬学科においても孤独を感じている学生は多くないようである。情報科学部では0人が顕著に多い。



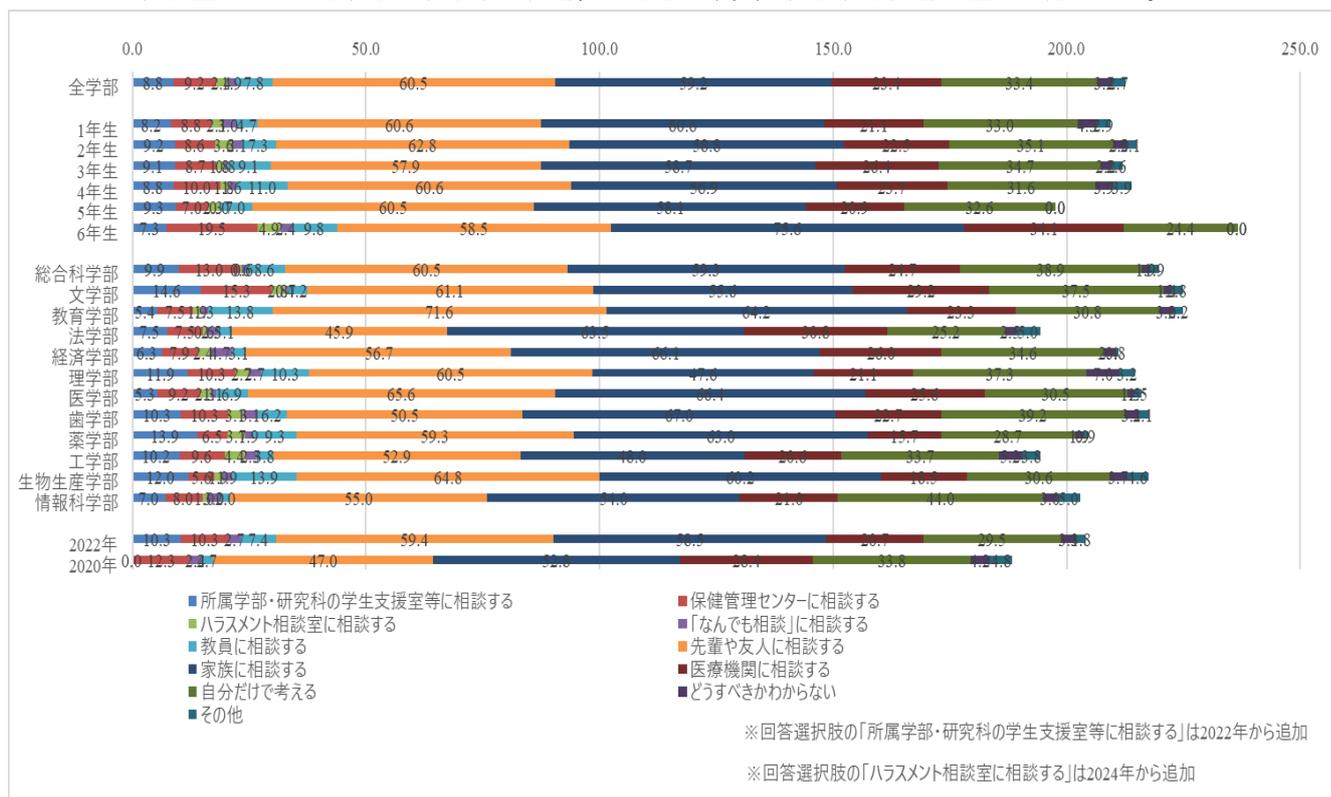
### 設問 42 本学にある各種相談窓口のうち、知っているものはどれですか。(複数回答可)

学生のための何でも相談、ピアサポートルーム、アクセシビリティセンターの認知度が比較的低い。医学部、歯学部、薬学部では、ピアサポートルーム、アクセシビリティセンターの認知度が低いようである。全体的には前回から特に変化はなし。



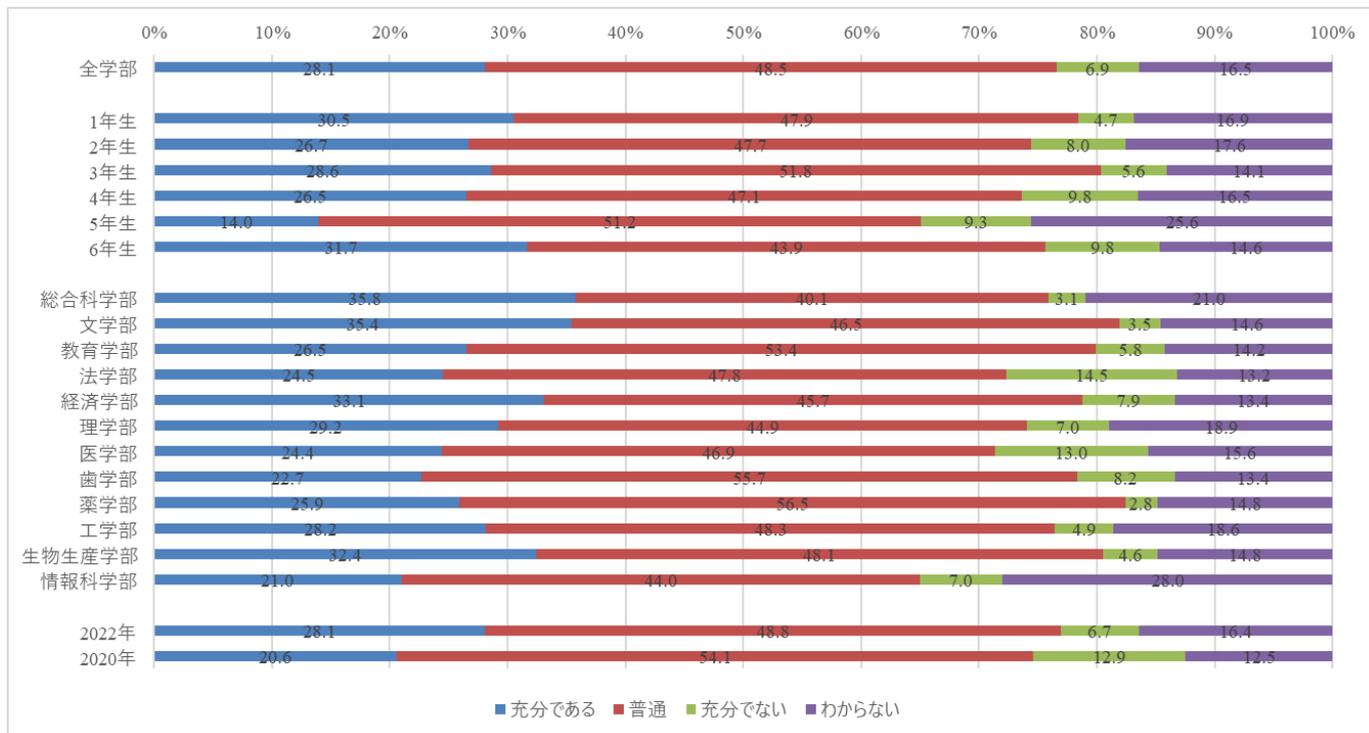
**設問 43 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、解消に向けてどうしますか。(複数回答可)**

先輩や友人、家族に相談する割合が顕著に多かった。また、以前よりも割合が高くなっている。一方で、ハラスメント相談室やなんでも相談に相談する割合、ならびに教員に相談する割合が極めて低かった。



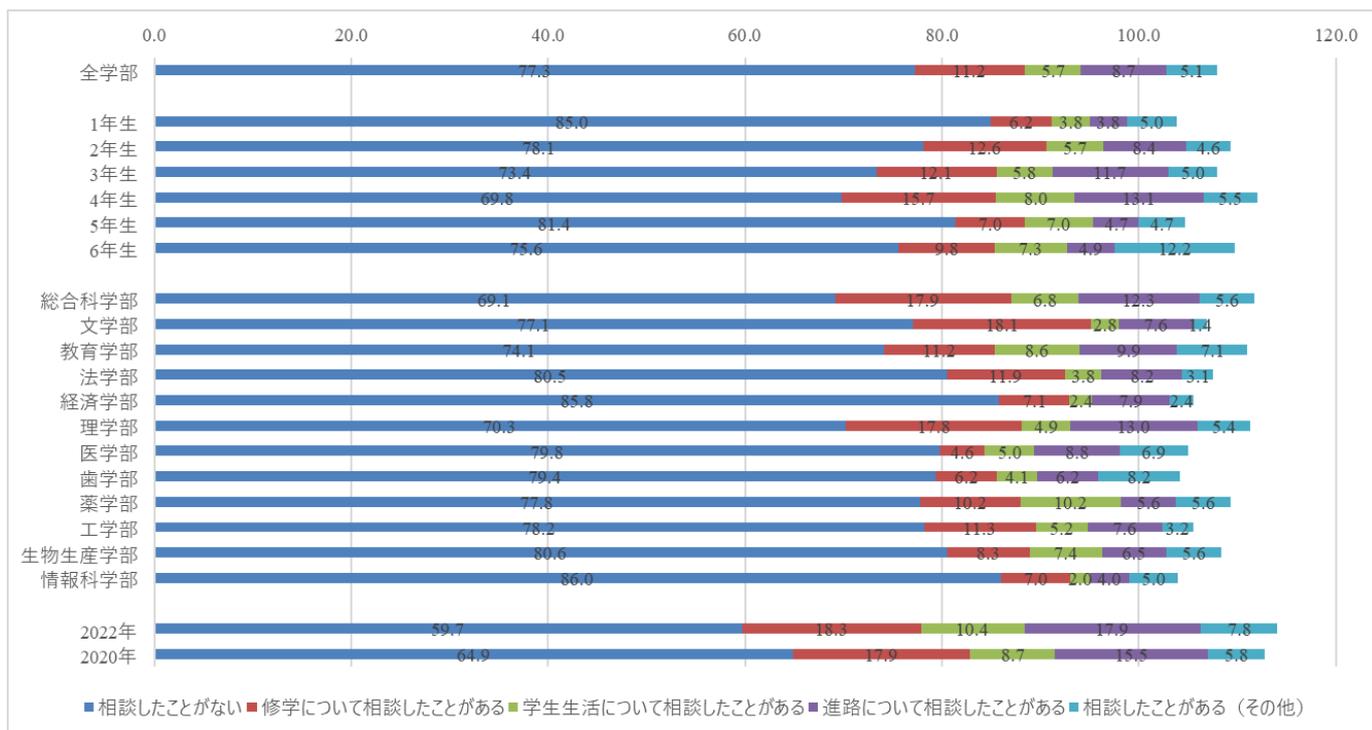
**設問 44 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート(支援)体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。**

普通・充分と回答した割合は70%以上、充分でないと回答した割合は10%未満であり、概ね満足していると思われる。2020年時から満足度は回復しているようである。



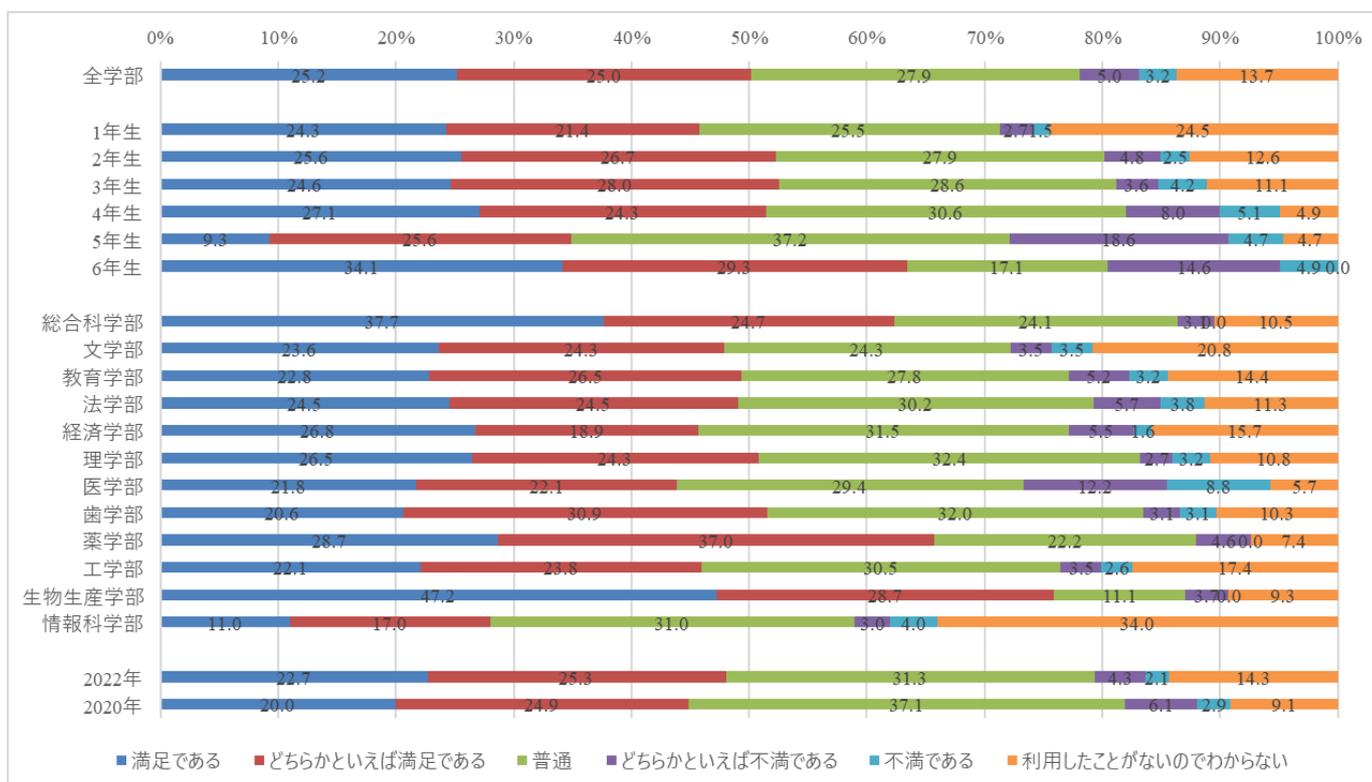
**設問 45 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいます。チューター面談時以外で、チューター相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)**

相談したことがないと答えた学生は概ね 80%程度。以前の調査時より相談したことがないと回答した割合は増加している。



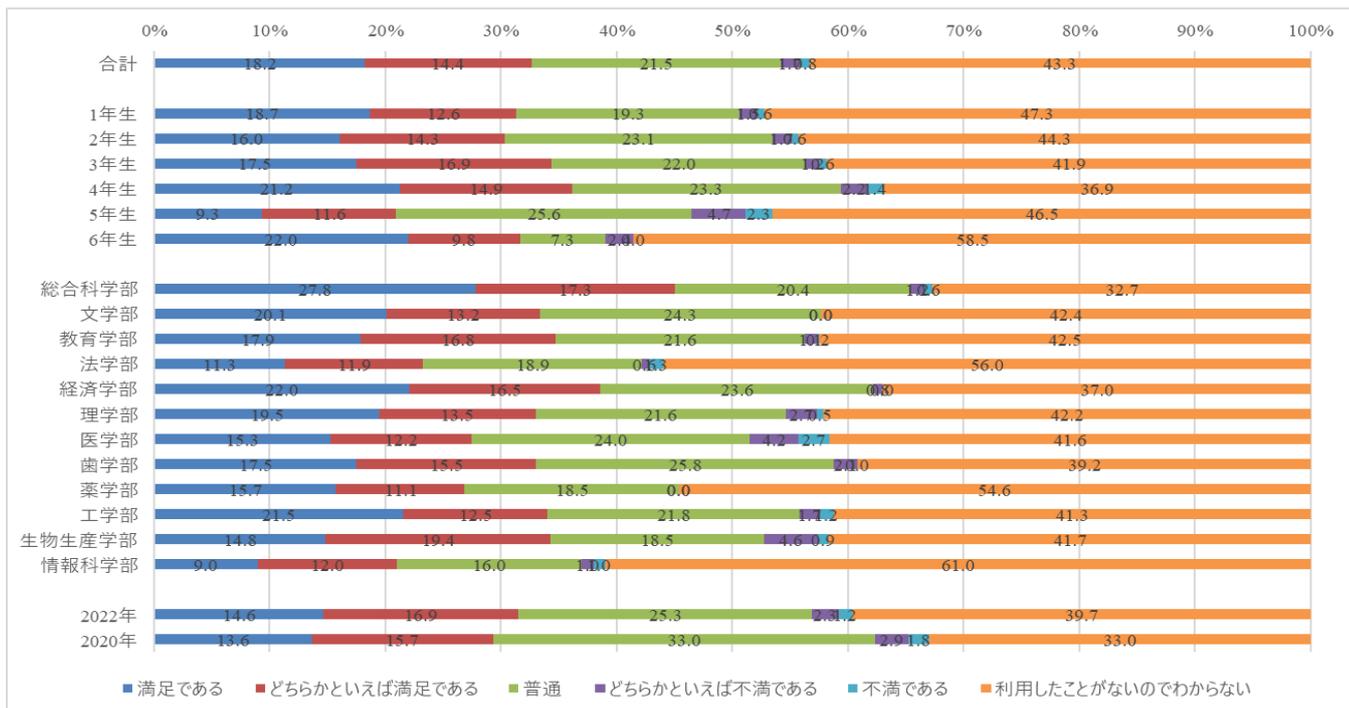
**設問 46 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。**

不満と回答した学生は 5%未満であり、概ね満足しているようである。生物生産学部の満足度が特に高く、逆に医学部では不満、どちらかといえば不満と回答した割合が比較的高かった。



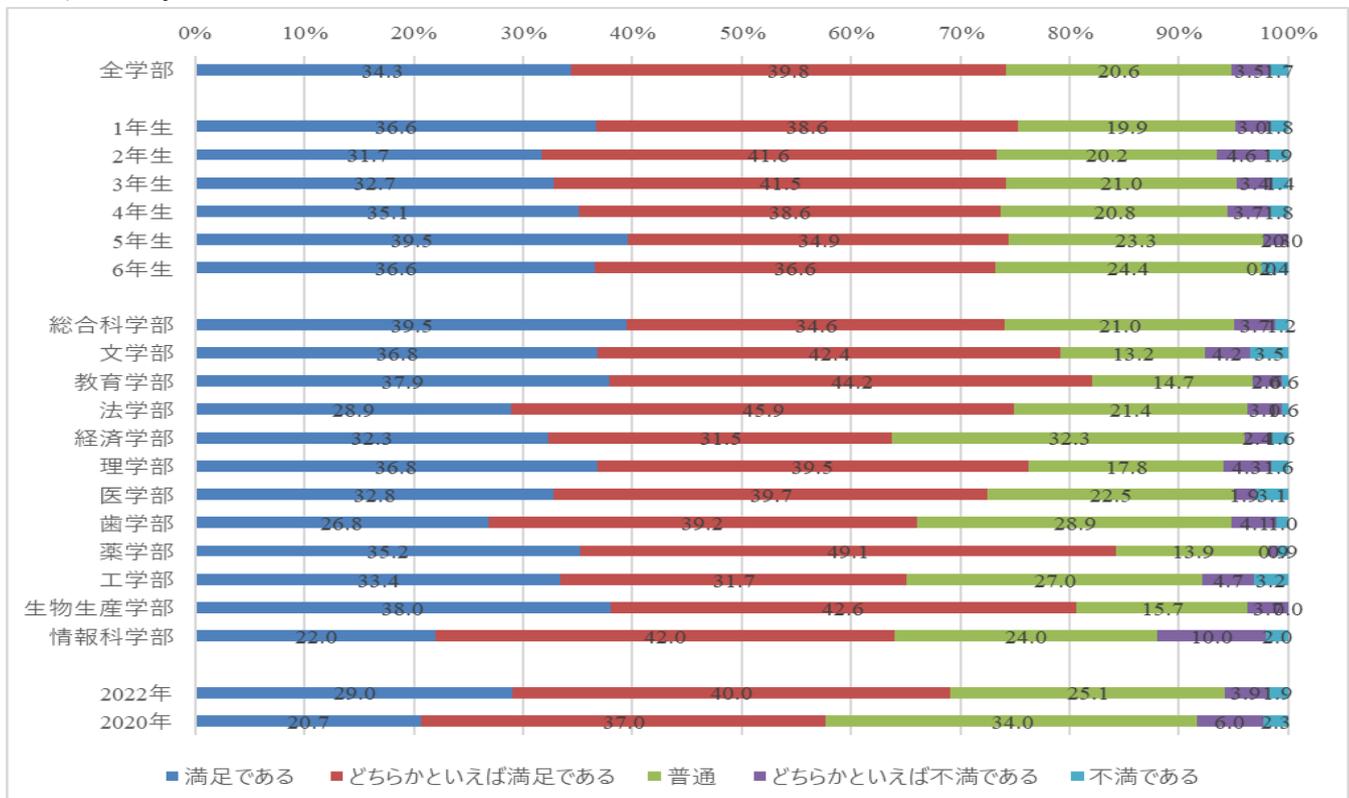
**設問 47 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。**

利用したことがないと回答した割合が40%以上と高かった。不満、どちらかといえば不満と回答した割合はいずれも数%程度であり、概ね満足しているようである。



**設問 48 本学での教育・学習，学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。**

満足、どちらかといえば満足と回答した割合が60~70%であり、不満、どちらかといえば不満と回答した割合が数%程度であることから、概ね満足しているといえる。また、以前の調査よりも満足度は向上しているようである。



**設問 49 本学以外での生活に関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。**

満足、どちらかといえば満足と回答した割合が約 80%であり、不満、どちらかといえば不満と回答した割合が数%程度であることから、概ね満足しているといえる。

